

大仙市森林整備計画

計画期間

自 令和 2年 4月 1日

至 令和12年 3月31日

(令和6年4月変更)

秋 田 県
大 仙 市

森林整備計画 大仙市位置図

平成17年3月22日に大曲市・神岡町・西仙北町・中仙町・協和町・南外村・仙北町・太田町の8市町村が合併して誕生した本市（大仙市）は、県南の内陸部に位置し、東は仙北市（旧角館町）や岩手県と、南は横手市（旧横手市・旧大森町・旧大雄村）・美郷町（旧千畑町・旧六郷町・旧仙南村）、西は秋田市（旧雄和町地区）・由利本荘市（旧大内町地区）、北は秋田市（旧河辺町地区）・仙北市（旧西木村）と、それぞれ接しております。

古くから県南の交通の要衝であり、現在でも秋田新幹線や秋田自動車道等をはじめとする鉄道・道路の結節点として拠点機能の強化が進んでいるため、県の8地方の一つである仙北地方の中心として国や県の様々な機関が設置されています。

又、秋田自動車道が整備されたことにより秋田空港へも身近となり、秋田新幹線と併せ首都圏からの一日行動圏に入り多彩な交流が可能な立地となっております。



目 次

I 伐採、造林、保育、その他森林の整備に関する基本的な事項

- 1 森林整備の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 森林整備の基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 森林施業の合理化に関する基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

II 森林の整備に関する事項

- 第1 森林の立木竹の伐採に関する事項（間伐に関する事項を除く）・・・・・・ 4
 - 1 樹種別の立木の標準伐期齢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - 2 立木の伐採（主伐）の標準的な方法・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - 3 その他必要な事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

- 第2 造林に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - 1 人工造林に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - 2 天然更新に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - 3 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林に関する事項・・・・・・・・ 7
 - 4 森林法第10条の9第4項の規定に基づく伐採の中止又は造林をすべき旨の命令の基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - 5 その他必要な事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

- 第3 間伐を実施すべき標準的な林齢、間伐及び保育の標準的な方法その他間伐及び保育の基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - 1 間伐を実施すべき標準的な林齢及び間伐の標準的な方法・・・・・・・・ 8
 - 2 保育の種類別の標準的な方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - 3 その他間伐及び保育の基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - 4 その他必要な事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

- 第4 公益的機能別施業森林等の整備に関する事項・・・・・・・・・・・・ 10
 - 1 公益的機能別施業森林の区域及び当該区域における施業の方法・・・・ 10
 - 2 木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域及び当該区域内における施業の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - 3 その他必要な事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

第5	委託を受けて行う森林の施業又は経営の実施の促進に関する事項	1 2
1	森林の経営の受委託等による森林の経営の規模の拡大に関する方針	1 2
2	森林の経営の受委託等による森林の経営の規模の拡大を促進するための 方策	1 3
3	森林の施業又は経営の受委託等を実施する上で留意すべき事項	1 3
4	森林経営管理制度の活用に関する事項	1 3
5	その他必要な事項	1 3
第6	森林施業の共同化の促進に関する事項	1 3
1	森林施業の共同化の促進に関する方針	1 3
2	施業実施協定の締結その他森林施業の共同化の促進方策	1 3
3	共同して森林施業を実施する上で留意すべき事項	1 4
4	その他必要な事項	1 4
第7	作業路網その他森林の整備のために必要な施設の整備に関する事項	1 4
1	作業路網の整備に関する事項	1 5
2	その他必要な事項	1 7
第8	その他必要な事項	1 7
1	林業に従事する者の養成及び確保に関する事項	1 7
2	森林施業の合理化を図るために必要な機械の導入の促進に関する事項	1 8
3	林産物の利用の促進のために必要な施設の整備に関する事項	1 8
4	その他必要な事項	1 9

Ⅲ 森林の保護に関する事項

第1	鳥獣害の防止に関する事項	2 0
1	鳥獣害防止森林区域及び当該区域内における鳥獣害の防止の方法	2 0
2	その他必要な事項	2 0
第2	森林病虫害の駆除及び予防、火災の予防その他の森林の保護に関する事項	2 0
1	森林病虫害等の駆除及び予防の方法	2 0
2	鳥獣害対策の方法（第1に掲げる事項を除く）	2 0
3	林野火災の予防の方法	2 0
4	森林病虫害の駆除等のための火入れを実施する場合の留意事項	2 1
5	その他必要な事項	2 1

Ⅳ 森林の保健機能の増進に関する事項

Ⅴ その他森林の整備に必要な事項

1	森林経営計画の作成に関する事項	2 2
---	-----------------	-----

2	生活環境の整備に関する事項	2 2
3	森林整備を通じた地域振興に関する事項	2 2
4	森林の総合利用の推進に関する事項	2 2
5	住民参加による森林の整備に関する事項	2 3
6	その他必要な事項	2 4
7	森林経営管理制度に基づく事業に関する事項	2 5

I 伐採、造林、保育その他森林の整備に関する基本的な事項

1 森林整備の現状と課題

本市は県内でも有数の森林地帯であり、総土地面積の 57.7%にあたる 50,041ha が森林面積である。保有形態別にみると、国有林が 15,213ha (30.4%)、民有林が 34,828ha (69.6%) となっている。民有林のうち天然林は 15,962ha (45.9%) で、人工林は 18,496ha (53.1%)、無立木地 368ha (1%) となっているものの、林業労働者の減少、高齢化、木材価格の低迷、産地間競争の激化等により、森林・林業をとりまく環境は厳しさを増しており、林業生産活動は低迷している。

一方、国土保全、水源の涵養、森林浴等の保健休養、温室効果ガスの吸収など、森林の有する多面的な機能の発揮に対する要請は高まりつつある。

このため、今後は森林・林業をとりまく情勢を見極めつつ「林業の振興」と「秋田スギの供給基地づくり」を基本として、造林と間伐をはじめとする保育の推進、広葉樹林の育成、林道網の整備拡充など、林業生産基盤の整備を図るとともに、林業生産の担い手の育成・確保・森林資源の多面的活用による地域林業の活性化、県産材（秋田スギ）需要拡大などを総合的に推進していく必要がある。

2 森林整備の基本方針

(1) 地域の目指すべき森林資源の姿

森林の整備及び保全に当たっては、森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるため、各機能の充実と機能間の調整を図り、適切な森林施業の実施により、健全な森林資源の維持増進を図るものとし、各機能の望ましい森林の姿は、次のとおりとする。

①「水源涵養機能」

下層植生とともに樹木の根が発達することにより、水を蓄える隙間に富んだ浸透・保水能力の高い森林土壌を有する森林であって、必要に応じて浸透を促進する施設等が整備されている森林

②「山地災害防止機能／土壤保全機能」

下層植生が生育するための空間が確保され、適度な光が射し込み、下層植生とともに樹木の根が深く広く発達し、土壌を保持する能力に優れた森林であって、必要に応じて山地災害を防ぐ施設が整備されている森林

③「快適環境形成機能」

樹高が高く枝葉が多く茂っているなど、遮蔽能力や汚染物質の吸着能力が高く、諸被害に対する抵抗性が高い森林

④「保健・文化機能」

身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理され、多様な樹種等からなり、市民等に憩いと学びの場を提供している森林であって、必要に応じて保健・教育活動に適した施設が整備されている森林

史跡・名勝等と一体となって潤いのある自然景観や歴史的風致を構成している森林であって、必要に応じて文化活動に適した施設が整備されている森林

⑤「木材等生産機能」

材木の生育に適した土壌を有し、木材として利用する上で良好な樹木により構成され、成長量が高い森林であって、林道等の基盤施設が適切に整備されている森林

(2) 森林整備の基本的な考え方及び森林施業の推進方策

雄物川地域森林計画で定める森林整備及び保全の基本方針を基本とする。

①「水源涵養機能」

ダム集水区域や主要な河川の上流に位置する水源地周辺の森林及び地域の用水源として重要なため池、湧水地及び溪流等の周辺に存する森林については、水源涵養機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

具体的には、洪水の緩和や良質な水の安定供給を確保する観点から、適切な保育・間伐を促進しつつ、下層植生や樹木の根を発達させる施業を基本とするとともに、伐採に伴って発生する裸地については、縮小及び分散を図ることとする。また、自然条件や市民のニーズ等に応じ、天然力も活用した施業を推進することとする。

ダム等の利水施設上流部等において、水源涵養の機能が十分に発揮されるよう、保安林の指定やその適切な管理を推進することとする。

②「山地災害防止機能／土壤保全機能」

山腹崩壊等により人命・人家等施設に被害を及ぼすおそれのある森林など、土砂の流出、土砂の崩壊の防備その他山地災害の防備を図る必要のある森林については、山地災害防止機能／土壤保全機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

具体的には、災害に強い市土を形成する観点から、地形、地質等の条件を考慮した上で、林床の裸地化の縮小及び回避を図る施業を推進することとする。また、自然条件や市民のニーズ等に応じ、天然力も活用した施業を推進することとする。

集落等に近接する山地災害の発生の危険性が高い地域等において、土砂の流出防備等の機能が十分に発揮されるよう、保安林の指定やその適切な管理を推進するとともに、溪岸の侵食防止や山脚の固定等を図る必要がある場合には、谷止や土留等の設置を推進することとする。

③「快適環境形成機能」

市民の日常生活に密接に関わりを持つ里山林等であって、騒音や粉塵等の影響を緩和する森林及び森林の所在する位置、気象条件等からみて風害、霧害等の気象災害を防止する効果が高い森林については、快適環境形成機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

具体的には、地域の快適な生活環境を保全する観点から、風や騒音等の防備や大気の浄化のために有効な森林の構成の維持を基本とし、樹種の多様性を増進する施業や適切な保育・間伐等を推進することとする。

快適な環境の保全のための保安林の指定やその適切な管理、防風等に重要な役割を果たしている森林の保全を推進することとする。

④「保健・文化機能」

観光的に魅力のある高原、溪谷等の自然景観や植物群落を有する森林、キャンプ場や森林

公園等の施設を伴う森林など、市民の保健・教育的利用等に適した森林については、保健機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

また、史跡・名勝等の所在する森林や、これらと一体となり優れた自然景観等を形成する森林については、潤いある自然景観や歴史的風致を構成する観点から、文化機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

具体的には、市民に憩いと学びの場を提供する観点から、自然条件や市民のニーズ等に応じ、広葉樹の導入を図るなどの多様な森林整備を推進するとともに、美的景観の維持・形成に配慮した森林整備を推進することとする。

また、保健や風致等のための保安林の指定やその適切な管理を推進することとする。

⑤「木材等生産機能」

林木の生育に適した森林で、効率的な森林施業が可能な森林については、木材等生産機能の維持増進を図る森林として整備を推進することとする。

具体的には、木材等の林産物を持続的、安定的かつ効率的に供給する観点から、森林の健全性を確保し、木材需要に応じた樹種、径級の材木を生育するための適切な造林、保育、間伐等を推進することを基本として、将来にわたり育成単層林として維持する森林では、主伐後の植栽による確実な更新を行うこととする。この場合、施業の集約化や機械化等を通じた効率的な整備を推進することを基本とする。

3 森林施業の合理化に関する基本方針

森林経営の受委託等による森林の経営規模の拡大を推進するため、森林所有者等への働きかけや情報提供などの普及啓発活動を行い、意欲ある森林所有者・森林組合・林業事業者への森林経営の委託の転換を目指すものとする。

また、雄物川流域林業活性化センターの方針の下に、県、市、森林所有者、森林組合、森林管理署等で相互に連携を図りながら、森林施業の集約化や適切な路網配置、林業後継者の育成、機械化の促進及び木材流通・加工体制の整備など、長期展望に立った林業諸施策の総合的な実施を、関係者が一体となって計画的に推進するものとする。



II 森林の整備に関する事項

第1 森林の立木竹の伐採に関する事項（間伐に関する事項を除く）

1 樹種別の立木の標準伐期齢

主要樹種について、平均成長量が最大となる林齢を基準に、森林の有する公益的機能、平均伐採林齢及び森林の構成を勘案して、次のとおりとする。

地域	樹 種						
	スギ	アカマツ	クロマツ	カラマツ	その他針葉樹	ブナ	その他
全域	50年	40年	40年	35年	50年	60年	25年

※なお、標準伐期齢は主伐の時期に関する指標として定めるものであり、森林の伐採を義務づけるものではない。

2 立木の伐採（主伐）の標準的な方法

主伐にあたっては、「主伐時における伐採・搬出指針の制定について」（令和3年3月16日付2林整整第1157号林野庁長官通知）を踏まえ、適切に実施することとする。

（1）皆伐

主伐のうち択伐以外のものとする。皆伐に当たっては、気候、地形、土壌等の自然条件及び公益的機能の確保の必要性を踏まえ、適切な伐採区域の形状、1箇所当たりの伐採面積の規模及び伐採区域のモザイク的配置に配慮し、伐採の面積の規模に応じて少なくともおおむね20ha毎に保残帯を設け、適確な更新を図ることとする。

（2）択伐

主伐のうち、伐採区域の森林を構成する立木の一部を伐採する方法であって、単木・帯状又は樹群を単位として伐採区域全体ではおおむね均等な割合で行うものであり、材積にかかる伐採率が30%以下（伐採後の造林が植栽による場合にあっては40%以下の伐採）とする。択伐に当たっては、森林の有する多面的機能の維持増進が図られる適切な林分構造となるよう一定の立木材積を維持するものとし、適切な伐採率によることとする。

また、立木の伐採の標準的な方法を進めるに当たっては、以下の①～④に留意する。

- ①森林の生物多様性の保全の観点から、野生生物の営巣等に重要な空洞木等について、保残等に努める。
- ②森林の多面的機能の発揮の観点から、伐採跡地が連続することのないよう、伐採跡地間の距離として、少なくとも周辺森林の成木の樹高程度の幅を確保する。
- ③伐採後の適確な更新を確保するため、あらかじめ適切な更新の方法を定め、その方法を勘案して伐採を行うものとする。特に、伐採後の更新を天然更新による場合には、天然稚樹の生育状況、母樹の保存、種子の結実等に配慮する。
- ④林地の保全、雪崩、落石等の防止、風害等の各種被害の防止、風致の維持等のため、溪流周辺や尾根筋等に保護樹帯を設置する。

3 その他必要な事項

該当なし

第2 造林に関する事項

1 人工造林に関する事項

人工造林については、植栽によらなければ適格な更新が困難な森林や公益的機能の発揮の必要性から植栽を行うことが適当である森林のほか、木材等生産機能の発揮が期待され、将来にわたり育成単層林として維持する森林において行うこととする。

また、花粉発生源対策の加速化を図るため、特定苗木などの成長に優れた苗木や小花粉スギなどの花粉の少ない苗木の導入及び増加に努めることとする。

(1) 人工造林の対象樹種

人工造林は適地適木を旨とし、自然条件や既往の造林地の生育状況を勘案し、造林が容易で健全に生育し、材質等が優れている次の樹種を選定するものとする。

なお、次の樹種以外を植栽しようとする場合は、林業普及指導員等に相談し、適切な樹種を選択することとする。

【人工造林の対象樹種】

人工造林の対象樹種	
針葉樹	スギ等
広葉樹	ケヤキ、キハダ、イヌエンジュ等

(2) 人工造林の標準的な方法

植栽本数は、生産材の目標、伐期等を勘案して次を標準とする

【人工造林の樹種別、仕立ての方法別の植栽本数】

樹種	仕立ての方法	植栽本数(本/ha)
スギ	疎密度仕立て(収量比数 0.5)	1,500~2,100
	疎~中庸密度仕立て(収量比数 0.6)	~2,500
	中庸密度仕立て(収量比数 0.7)	~3,000

※ スギ以外の樹種は、林地の生産力、自然条件を考慮して定めるものとする。

また、スギを主体とする育成複層林については、上層木林分の樹冠のうっ閉度、既往の植栽本数等を勘案して、植栽本数を決定することとするが、下層木の確実な成長を促進するため、樹冠直下を避けて植栽することとする。

【その他人工造林の標準的な方法】

区分	標準的な方法
地拵えの方法	雑かん木類、笹、雑草等は、できるだけ地際より丁寧に伐倒又は刈払いし、発生した支障木等は筋状に集積するか、又は沢敷地等の植栽地外に集積することとする。
植付けの方法	植栽時期は春又は秋植えとするが、極力乾燥時期を避け、必要に応じ植付けの方法も植え穴を大きくし丁寧植えを行うなど、その後の苗木の活着と成長が十分図られるよう行うこととする。 また、現地の状況に応じた本数の苗木を植栽することとし、コンテナ苗の活用や伐採と造林の一貫作業システム、低密度植栽の導入に努めることとする。

(3) 伐採跡地の人工造林をすべき期間

森林資源の積極的な造成とともに林地の荒廃を防止するため、植栽によらなければ適確な更新が困難な森林及びそれ以外の森林において人工造林を伴うものにあつては、伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して2年以内に更新するものとする。

択伐による伐採に係るものについては、伐採による森林の有する公益的機能への影響を考慮し、伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して5年を超えない期間で更新を図ることとする。

なお、森林は公共財として、補助金も投入され、その整備・保全が推進されていることから、伐採跡地における適確な更新が図られるよう、森林所有者等に対する指導により理解の促進を図るとともに、秋田県水源森林地域に指定された森林及び同地域に接する森林においては、人工造林での更新が図られるよう努める。

2 天然更新に関する事項

天然更新については、前生稚樹の生育状況、母樹の存在など森林の現況、気候、地形、土壌等の自然条件、林業技術体系等からみて、主として天然力の活用により適格な更新が図られる森林において行うこととする。

(1) 天然更新の対象樹種

自然条件、既往の育成状況を勘案し、健全に育成し、材質等に優れている樹種とし、次のとおりとします。

針葉樹及びブナ※、コナラ類※、クルミ類、クリ※、ケヤキ、ホオノキ※、サクラ類※、カエデ類※、トチノキ、シナノキ、センノキ、カバノキ類等の広葉樹であつて将来その林分において高木となりうる樹種とする。

※は、ぼう芽更新が可能な樹種

(2) 天然更新の標準的な方法

①天然更新の標準的な方法

気象その他の自然条件、既往の造林方法等を勘案し、Ⅱの第2の2(1)に定める対象樹種の期待成立本数は次のとおりとし、天然更新を行う際には、その本数に10分の3を乗じた本数(ただし、草丈以上のものに限る。)とする。

また、天然更新に当たって、地表処理、刈出し、植込み、芽かきの方法については、次のとおりとする。なお、ぼう芽更新による場合には、ぼう芽の発生状況等を考慮し、必要に応じて芽かき又は植込みを行うものとする。

【天然更新の対象樹種の期待成立本数】

樹種	期待成立本数
2の(1)に定める樹種	10,000本/haを基準とする。

【天然更新補助作業の標準的な方法】

区 分	標準的な方法
地表処理	ササの繁茂や枝条の堆積等により、天然下種更新が阻害されている箇所については、かき起こしや枝条整理等を行い種子の定着及び発育の促進を図る。
刈 出 し	ササなどの下層植生により天然稚樹の生育が阻害されている箇所については、刈り払い等により稚幼樹の成長の促進を図る。
植 込 み	天然稚幼樹等の生育状況を勘案し、下種更新及びぼう芽更新の不十分な箇所については、必要な本数を植栽する。
芽 か き	ぼう芽更新を行った箇所について、目的樹種の発生状況により必要に応じて優良芽を1株あたり3～5本を目安として、ぼう芽整理を行うものとする。

②その他天然更新の方法

伐採跡地の天然更新については、当該伐採が終了した日を含む年度の初日から起算して5年を経過した時点で「秋田県人工林伐採跡地天然更新完了基準（秋田県地域森林計画編成業務要領）」に基づき、伐採後林地の更新状況を確認し、更新完了を判断するとともに、更新すべき立木の本数に満たず天然更新が困難であると判断される場合には、天然更新補助作業又は人工造林により確実に更新を図るものとする。

また、天然更新が期待できない以下の森林については、植栽による更新の確保を図るものとする。

- ・ 種子を供給する母樹が存在しない森林
- ・ 有用天然木※の稚樹の育成が期待できない森林
- ・ 面積の大きな針葉樹人工林であって、林床に本木類が見られないもののうち、気候、地形、土壌条件、周囲の森林の状況等により、皆伐後も本木類の侵入が期待できない森林

※ 有用天然木とは、Ⅱの第2の2の（1）に定める樹種

③伐採跡地の天然更新をすべき期間

森林の有する公益的機能の維持及び早期回復を旨として、当該伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して5年以内に更新するものとする。

3 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林に関する事項

（1）植栽によらなければ適格な更新が困難な森林の基準

主伐後の適格な更新を図るため、次の森林については原則として植栽によらなければ適格な更新が困難な森林とし、植栽により更新を図ることとする。

- ① 種子を供給する母樹が存在しない森林
- ② 有用天然木の稚樹の育成が期待できない森林
- ③ 面積の大きな針葉樹人工林であって林床本木類がみられないもののうち、気候、地形、土壌条件、周辺の森林の状況等により、皆伐後も本木類の侵入が期待できない森林

（2）植栽によらなければ適格な更新が困難な森林の所在

該当なし。

4 森林法第10条の9第4項の規定に基づく伐採の中止又は造林をすべき旨の命令の基準

(1) 更新に係る対象樹種

- ・人工造林の場合はⅡの第2の1の(1)による。
- ・天然更新の場合はⅡの第2の2の(1)による。

(2) 生育し得る最大の立木の本数

植栽によらなければ適格な更新が困難な森林以外の森林の伐採跡地における植栽本数は、天然更新の対象樹種の立木が5年生時点でⅡの第2の2の(2)の①に定める期待成立本数とする。また、当該対象樹種のうち、周辺の草丈以上のものについて、その本数に、10分の3を乗じた本数以上の本数を更新すべき本数とする。

5 その他必要な事項

該当なし。

第3 間伐を実施すべき標準的な林齢、間伐及び保育の標準的な方法その他間伐及び保育の基準

1 間伐を実施すべき標準的な林齢及び間伐の標準的な方法

間伐は、森林の立木の生育の促進並びに林分の健全化及び利用価値の向上を図ることを旨とし、地域における間伐の方法等を勘案して、間伐の回数及びその実施時期等については、次のとおりとする。なお、1回当たりの間伐率(材積)は概ね30%とする。

自然条件の劣る初回間伐等にあつては、効率的な作業実施の上から必要がある場合については、列状間伐の実施も考慮することとする。

【間伐を実施すべき標準的な林齢及び間伐の標準的な方法】

生産目標	主伐までの目標
良質材生産	節などの形質の悪い木がない良質な小～中径材の生産を目指す
一般材生産	植栽や間伐のコストを抑えて、低コストな生産を目指す
大径材生産	天然秋田スギの代替えになるような良質な大径材の生産を目指す

樹種	生産目標 (植栽本数)	伐期 (年)	仕立て 方法	間伐の時期(年)							備考
				初回	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	
スギ	良質材生産 (3,000本)	50	中庸密度 仕立	11~15	21~25	26~30	31~35	36~40			
		80		11~15	21~25	26~30	31~35	41~45	51~55	61~70	
	一般材生産 (3,000本)	50	中庸密度 仕立	16~20	21~25	26~30	36~40				初回は 除伐
		80		16~20	21~25	26~30	36~40	51~60			
	一般材生産 (2,500本)	50	中庸～疎 密度仕立	16~25	26~30	36~40					初回は 除伐
		80		16~25	26~30	41~45	56~65				
	一般材生産 (2,100本)	50	疎密度仕 立	16~25	31~40						初回は 除伐
		80		16~25	31~40	46~55	56~65				
大径材生産 (3,000本)	100 以上	中庸密度 仕立	16~20	21~25	26~30	36~40	51~60	66~75	81~90	初回は 除伐	

※ 除伐の時期、回数を考慮して、初回間伐を実施。

なお、間伐の標準的な間隔は次を標準とする。

- ・標準伐期齢未満：10年
- ・標準伐期齢以上：15年

2 保育の種類別の標準的な方法

保育の種類は、原則として下刈、除伐、枝打ち及びつる切とし、次のとおりとする。

保育の標準的な方法については、当該森林の植生状況、立木の成長度合い等を勘察し、時期、回数、標準的な方法については、次により適切に実施するものとする。特に作業の省力化・効率化にも留意しつつ、局地的な気象条件、植生の繁茂状況等に応じた適切な時期に適切な作業方法により行う。また、その実施時期については、目的樹種の生育状況、植生の種類及び植生高により判断する。

【標準的な方法】

下刈：植栽木が下草より抜け出るまで行う。実施時期は6～7月頃を目安とする。

除伐：造林木の成長を阻害したり、阻害が予想される侵入木や形成不良木を除去する。侵入した広葉樹については、土壌の理化学性の維持改善、景観の向上等を図るため、形質の良好なものの保残を考慮する。実施時期は、8～10月頃を目安とする。

枝打ち：病虫害等の発生を予防するとともに、材の完満度を高め、優良材を得るため、必要に応じて行う。実施時期は樹木の成長休止期の12月下旬～3月上旬頃を目安とする。

つる切り：下刈終了後、つるの繁茂の状況に応じて行う。実施時期は6～7月頃を目安とする。

【スギ人工林の保育の目安】

	施業種	実施すべき標準的な林齢及び回数																												備考
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	22	26	30						
良質材生産	下刈	○	◎	◎	○	○	○	○	△	△	△																			
	除伐										○					○														
	枝打ち															○			○					○	○	○			枝下高 8.0m	
	つる切り										○					○														
	雪起し		△	△	△	△	△	△																						
一般材生産	下刈	△	○	○	○	○	○	△	△	△	△																			
	除伐											○						△												
	枝打ち															○						○						枝下高 4.0m		
	つる切り											○						○												
	雪起し																											雪害木が除伐時		

◎：年2回実施 ○：年1回実施 △：必要により実施

3 その他間伐及び保育の基準

間伐及び保育を行う際には、林地の保全に配慮し、必要に応じて林地残材や枝条を集積し、災害の防止に努めるものとする。また、森林の状況に応じて高性能林業機械の活用や列状間伐の導入など効率的な施業を図るものとする。なお、局所的な森林の生育状況の差違等を踏まえ、「標準的な方法」に従って間伐又は保育を行ったのでは十分に目的を達することができないと見込まれる森林については、特に次の点に留意することとする。

(1) 間伐

路網整備の遅れ等により間伐が十分に実施されていない林分については、風害に留意し、間伐の繰り返し期間は5年程度とし、5～8%の間伐率（材積）による弱度の間伐を実施することとする。

(2) 下刈

雑草木の繁茂が著しく材木の成長が遅い林分については、標準的な方法に示す林齢を超える場合であっても、必要に応じ、植栽木の高さが雑草木のおおむね1～5倍程度になるまで追加して実施することとする。

(3) つる切り

つる類の繁茂の著しい、沢沿いの箇所については、必要に応じ2～3年に1回、植栽木の成長に支障をきたさないよう実施する。

4 その他必要な事項

該当なし

第4 公益的機能別施業森林等の整備に関する事項

1 公益的機能別施業森林の区域及び当該区域における施業の方法

森林の有する公益的機能に応じ、当該機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域、及び当該区域内の森林施業の方法については次のとおりとする。

(1) 水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

(以下：水源涵養機能維持増進森林)

①区域の設定

水源かん養保安林や干害防備保安林、土砂流出防備保安林(比較的地盤が安定している森林)、ダム集水区域や主要な河川の上流に位置する水源地周辺の森林、地域の用水源として重要なため池、湧水池、溪流等の周辺に存する森林、水源涵養機能が高い森林などを区域として設定することとし、区域については別表1に定める。

②施業の方法

森林施業の方法として、下層植生や樹木の根を発達させる施業を基本とし、伐期の間隔の拡大とともに、伐採に伴って発生する裸地の縮小及び分散を図ることとし、施業方法については別表2及び別表3に定める。

【森林の伐期齢の下限】

地域	樹 種						
	スギ	アカマツ	クロマツ	カラマツ	その他針葉樹	ブナ	その他
全域	60年	50年	50年	45年	60年	70年	35年

(2) 土地に関する災害の防止機能及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林その他水源涵養機能維持増進森林以外の森林

(以下：山地災害防止等機能維持増進森林、快適環境形成維持増進森林、保健文化等機能維持増進森林)

①区域の設定

土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健文化機能の維持増進を図るため、次の a～c の森林などを区域として設定することとし、区域については別表 1 に定める。

a 山地災害防止等機能維持増進森林

土砂崩壊防備保安林、土砂流出防備保安林、なだれ防止保安林、落石防止保安林や砂防指定地周辺、山地災害危険地区等や山地災害の発生により人命・人家等施設への被害の恐れがある森林、山地災害防止機能評価区分が高い森林等を区域として定める。

b 快適環境形成維持増進森林

飛砂防備保安林、潮害防備保安林、防風保安林、防雪保安林、防霧保安林、防火保安林や市民の日常生活に密接な関わりを持ち塵等の影響を緩和する森林、風害、霧害等の気象災害を防止する効果が高い森林、生活環境保全機能の評価区分が高い森林等を区域として定める。

c 保健文化等機能維持増進森林

保健保安林、風致保安林、都市緑化法に規定する緑地保全地域及び特別緑化保全地区、都市計画法に規定する風致地区、文化財保護法に規定する史跡名勝天然記念物に係る森林、キャンプ場・森林公園等の施設を伴う森林など市民の保健・教育的利用に適した森林、優れた自然景観等を形成する森林、保健文化機能の評価区分が高い森林等を区域として定める。

②施業の方法

施業の方法として、地形・地質等の条件を考慮した上で伐採に伴って発生する裸地化の縮小並びに回避を図るとともに天然力も活用した施業、風や騒音等の防備や大気浄化のために有効な森林の構成の維持を図るための施業、美的景観の維持・形成に配慮した施業を推進することとする。

このため、次の a～c の森林のうち、これらの公益的機能の維持増進を特に図るための森林施業を推進すべき森林については、択伐による複層林施業を推進することとし、それ以外の森林については、択伐以外の方法による複層林施業を推進することとする。

また、適切な伐区の形状・配置等により、伐採後の林分においてこれらの機能が確保できる森林は、長伐期施業を推進することとし、主伐の時期は標準伐期齢のおおむね 2 倍以上とする。

【長伐期施業を推進すべき森林の伐期齢の下限】

地域	樹 種						
	スギ	アカマツ	クロマツ	カラマツ	その他針葉樹	ブナ	その他
全域	80年	64年	64年	56年	80年	96年	40年

なお、保健文化機能維持増進森林のうち、特に地域独特の景観等が求められる森林においては、特定の樹種の広葉樹を育成する森林施業を推進することとし、それぞれの森林の区域については、別表 2 及び別表 3 に定める。

- a 地形や傾斜が急な箇所、傾斜の著しい変移点をもっている箇所又は山腹の凹曲部等地表流水、地中水の集中流下する部分をもっている箇所、流れ盤となっている箇所、土壌等

が火山灰地帯で表土が粗しょうで凝集力の極めて弱い土壌からなっている箇所、土層内に異常な滞水層がある箇所、石礫地からなっている箇所、表土が薄く乾性な土壌からなっている箇所の森林等。

- b 都市近郊林等に所在する森林であって、郷土樹種を中心とした安定した林相をなしている森林、市街地道路等と一体となって優れた景観美を構成する森林、気象緩和、騒音防止等の機能を発揮している森林等。
- c 湖沼、瀑布、溪谷等の景観と一体となって優れた自然美を構成する森林、紅葉等の優れた森林美を有する森林であって、主要な眺望点から望見されるもの、ハイキング、キャンプ場等の保健・文化・教育的利用の場として特に利用されている森林又は希少な生物保護のため必要な森林のうち、保健・レクリエーション機能及び生物多様性保全機能並びに文化機能の発揮が特に求められる森林等。

2 木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域及び当該区域内における施業の方法

(1) 区域の設定

材木の生育に適した森林、林道等の開設状況等から効率的な施業が可能な森林、木材等生産機能が高い森林などを区域として設定することとし、国有林以外の管内森林の全域を木材等生産機能維持増進森林として定める。なお、公益的機能別施業森林と重複する場合は、それぞれの機能の発揮に支障がないよう施業をすることとする。

このうち、特に効率的な施業が可能な森林の区域については、災害が発生する恐れがない人工林を中心として、林地生産能力が高く、傾斜が比較的緩やかで林道等や集落からの距離が近いなどの条件等を勘案して設定する。

(2) 施業の方法

施業の方法として、木材等林産物を持続的、安定的かつ効率的に供給するため、生産目標に応じた主伐の時期及び方法として、植栽による確実な更新、保育及び間伐等を推進するとともに、特に効率的な施業が可能な森林における人工林の伐採後は、原則、植栽による更新を行うことを基本に、森林施業の集約化、路網整備や機械化等を通じた森林整備を図ることとし、多様な木材需要に応じた持続的・安定的な木材等の生産が可能となる森林資源構成となるよう努めることとする。

なお、主伐時期については、木材等資源の効率的な循環・利用を考慮して、長伐期化を含めた伐採時期の多様化を図るなど生産目標に応じた林齢で伐採することとする。

3 その他の必要な事項

該当なし。

第5 委託を受けて行う森林の施業又は経営の実施の促進に関する事項

1 森林の経営の受委託等による森林の経営の規模の拡大に関する方針

本市においては、森林の所有構造が小規模であること、所有者の高齢化が進んでいること、林業の採算性が低下していることなどから、所有者の林業への関心が低下しており、所有者のみで

は適切な森林施業の実施が困難となってきている。

そのため、意欲ある森林所有者や森林組合等へ森林施業の委託を進めるとともに、長期の森林経営委託への転換を促進し、森林経営の規模を拡大することとする。

2 森林の経営の受委託等による森林の経営の規模の拡大を促進するための方策

森林所有者等に対し、長期の施業の委託等森林経営の働きかけや市広報による情報提供など、普及啓発活動を行うこととする。

その際、長期の施業等の委託が円滑に進むよう、森林の土地の所有者届出制度の運用や固定資産課税台帳情報の適切な利用を通じて、得られた情報を林地台帳に反映するなどした、森林所有者情報の精度向上を図るとともに、施業の集約を取り組む者に対し、森林経営の委託等に必要情報を提供することとする。

3 森林の施業又は経営の受委託等を実施する上で留意すべき事項

森林所有者が長期の森林経営を委託する場合は、「森林経営委託契約書」等に基づき委託することとする。

委託期間は5年以上の期間を定め、委託事項は森林施業の実施とともに立木の処分、森林の保護等についても委託の内容として記載する。

4 森林経営管理制度の活用に関する事項

森林所有者が自ら森林組合等に施業の委託を行うなどにより森林の経営管理を実行することができない場合には、森林経営管理制度の活用を図り、森林所有者から経営管理権を取得した上で、林業経営に適した森林については意欲と能力のある林業経営者に経営管理実施権を設定するとともに、経営管理実施権の設定が困難な森林および当該権利を設定するまでの間の森林については、森林環境譲与税を活用しつつ、大仙市森林経営管理事業を実施することにより、適切な森林の経営管理を推進する。

5 その他必要な事項

特になし。

第6 森林施業の共同化の促進に関する事項

1 森林施業の共同化の促進に関する方針

本市の森林所有者のほとんどは、1ha未満の小規模所有者であることから、森林施業を計画的、効率的に行うため、市、森林組合、森林所有者等により森林施業の推進体制を整備するとともに、間伐をはじめとする森林施業の実施に関する話し合いを行い、森林施業の共同実施または経営委託を図っていくこととする。

特に、本市の林業労働力の中心的な担い手である森林組合等への経営委託の推進を通じ、資本の整備、作業班の拡充・強化等の事業体制の整備を図ることとする。

2 施業実施協定の締結その他森林施業の共同化の促進方策

施業の共同化を助長し合理的な林業経営を推進するため、施業実施協定の締結を促進し、作業路網の早急かつ計画的な整備、造林・保育及び間伐等の森林施業の森林組合への委託等により、計画的かつ効率的な森林施業を推進することとする。

また、不在村森林所有者に対して、森林組合等への森林経営委託を働きかけるとともに、消極的な森林所有者に対しては集会等への参加を呼びかけ、集会等において林業経営への参画意欲の拡大を図り施業実施協定への参画を促進することとする。

3 共同して森林施業を実施する上で留意すべき事項

森林所有者などが共同して森林施業を実施する場合には次に留意することとする。

- ・間伐を中心とする施業は、可能な限り共同で又は森林組合等の意欲のある林業事業体への経営委託により実施することとする。
- ・森林施業の共同化を効果的に促進するため、具体的な施業内容や作業路網等施設の設置や維持管理の方法について、共同して作業を行う者それぞれがあらかじめ確認することとする。
- ・共同で施業を実施しようとする者それぞれが果たすべき責務等を明確にすることとする。
- ・共同施行者の合意の下、施業実施協定の締結に努めることとする。

4 その他必要な事項

効率的な森林整備や路網整備のため、民有林と国有林が連携して取り組む森林施業の共同化のための団地設定を促進することとする。

第7 作業路網その他森林の整備のために必要な施設の整備に関する事項

作業路網は、林業機械の導入による労働強度の軽減を含め、生産性の向上による効率的な林業経営の改善を図る上で基盤となる施設である。

さらに、本市のように森林所有形態が小規模である場合、きめ細かな森林施業を実施するためにも作業路網の整備は重要であり、既設の林道、林業専用道及び森林作業道との調整を図りながら、その効果が十分発揮されるよう、施業実施協定の締結を促進しつつ、重点的に整備を行うべき地区を含め、その整備を積極的に推進することとする。

また、平成24年3月に制定された「秋田県林内路網の整備の促進に関する条例」（平成24年条例第6号）に基づき、県が定める林道網整備計画と市町村森林整備計画の整合性に配慮する。



1 作業路網の整備に関する事項

(1) 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システムに関する事項

森林施業等の効率的な実施のため、一般車両の走行を想定する「林道」、主として森林施業用の車両の走行を想定する「林業専用道」、集材や造材等の作業を行う林業機械の走行を想定する「森林作業道」からなる路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト・高効率な作業システムに対応したものとする。

その際、傾斜区分別の目指すべき路網密度の水準、作業システムは次のとおりとする。

なお、路網密度の水準については、木材搬出予定箇所に応用することとし、尾根、溪流、天然林等の除地には適用しないこととする。

【効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準】

区 分	作業システム	路網密度	作業システム(高性能林業機械)
緩傾斜地 (0～15°)	車両系	110m/ha 以上	〔伐木・造材〕 〔搬出〕 ハーベスタ フォワーダ
中傾斜地 (15°～30°)	車両系	85m/ha以上	〔伐木・造材〕 〔搬出〕 ハーベスタ フォワーダ
	架線系	25m/ha 以上	〔集材〕 〔造材〕 〔搬出〕 スイングヤーダ プロセッサ フォワーダ
急傾斜地 (30°～35°)	車両系	60<50>/ha 以上	〔造材〕 〔搬出〕 プロセッサ フォワーダ
	架線系	20<15>m/ha 以上	〔集材〕 〔造材〕 〔搬出〕 スイングヤーダ プロセッサ フォワーダ
急峻地 (35°～°)	架線系	5m/ha 以上	〔集材〕 〔造材〕 タワーヤーダ プロセッサ

注1：「急傾斜地」の〈〉書きは、広葉樹の導入による針広混交林など育成複層林へ誘導する森林における路網密度である。

(2) 林産物の搬出方法

林産物の搬出については、「主伐時における伐採・搬出指針の制定について」（令和3年3月16日付2林整整第1157号林野庁長官通知）を踏まえ、傾斜等の地形、地質、土壌等の条件に応じた適切な方法により行う。

(3) 路網整備と併せて効率的な森林施業を推進する区域に関する事項

【計画期間内に基幹路網整備と併せて効率的な森林施業を推進する区域】

路網整備等 推進区域	面積 (ha)	開設予定 路 線	延 長 (km)	対図番号	地 域	備 考
仁 応 寺	210	仁 応 寺	0.5	1	大 曲	
熊 沢	80	熊 沢	2.2	2	大 曲	
深 沢	170	深 沢	2.0	3	大 曲	
地 蔵 田	110	地 蔵 田	2.2	4	大 曲	
熊沢石持	130	熊沢石持	3.3	5	大 曲	
中山荒山台	87	中山荒山台	2.6	6	大 曲	
巢ノ沢小出沢	137	巢ノ沢小出沢	4.8	32	大 曲	
畑の沢青平	107	畑の沢青平	3.1	7	西仙北	
大 佐 沢	277	大 佐 沢	4.0	9	西仙北	
滝 尻 沢	159	滝 尻 沢	2.1	10	西仙北	
小西又沢	81	小西又沢	2.3	11	西仙北	
上田の沢	87	上田の沢	2.6	12	西仙北	
前 田 面	134	前 田 面	2.8	13	西仙北	
源四郎沢	107	源四郎沢	2.0	14	西仙北	
石 仏 沢	117	石 仏 沢	2.0	15	西仙北	
明光沢岳	125	明光沢岳	2.5	16	西仙北	
正 手 沢	250	正 手 沢	3.5	17	西仙北	
外 堤	155	外 堤	3.0	18	西仙北	
心 像	320	心 像	1.2	31	西仙北	
栗沢・大神成	92	栗沢・大神成	1.4	19	中 仙	
芹 沢	86	芹 沢	1.5	20	協 和	
樺 坂	114	樺 坂	2.0	21	協 和	
向 築 茂	181	向 築 茂	8.0	23	協 和	
七 袋	50	七 袋	1.5	24	協 和	
米ヶ森	115	米ヶ森	1.0	29	協 和	
白糸滝	127	白糸滝	3.9	33	協 和	
矢 向	119	矢 向	5.0	25	南 外	
湯 元	100	湯 元	3.2	30	南 外	
真木根堀	95	真木根堀	3.0	27	太 田	
大 台	100	大 台	1.6	28	太 田	
30箇所	3,969		80.8			

(4) 作業路網の整備及び維持運営に関する事項

国庫補助事業など活用した林道（林業専用道）の整備の推進と併せ、間伐・保育を早急に進めるため、特にこれまで一度も間伐を実施していない森林が集中する地区、今後、間伐・保育作業を実施する必要がある森林が集中する地区、長伐期施業及び複層林施業の適切な実施のための高齢級間伐等の実施が必要な地区等の森林のうち、施業実施協定に基づく作業路網の開設について、国庫補助の補助残の一部を補助するなどにより、作業路網の開設を積極的に推進するものとする。

① 基幹路網に関する事項

a 基幹路網の作設に係る留意点

安全の確保、土壌の保全等を図るため、適切な規格・構造の路網の整備を図る観点から、林道規程（昭和48年4月1日48林野道第107号林野庁長官通知）、林業専用道作設指針（平成22年9月4日22林整整第602号林野長官通知）を基本とし、県が定める林業専用道作設に則り開設する。

b 基幹路網の整備計画

上記計画によるほか、林道の開設に当たっては、森林の利用形態や地形・地質等に応じ林業専用道を導入するなど、丈夫で簡易な規格・構造を柔軟に選択するとともに、森林施業の優先順位に応じた整備を推進することとする。

c 基幹路網の維持管理に関する事項

開設した林道等の基幹路網については、「森林環境保全整備事業実施要領」（平成14年3月29日付け13林整整第885号林野庁長官通知）、「民有林林道台帳について」（平成8年5月16日付け8林整整第158号林野庁長官通知）等に基づき、台帳を作成して適切に管理する。

② 細部路網の整備に関する事項

a 細部路網の作設に係る留意点

効率的な森林施業を推進するため、基幹路網と連携するとともに丈夫で簡易な規格・構造の路網を整備する観点から、森林作業道作設指針（平成22年11月17日22林整整第656号林野庁長官通知）を基本とし、県が定める森林作業道作設指針に則り開設する。

b その他必要な事項

細部路網の整備計画について、別表4に定める。

2 その他必要な事項

該当なし。

第8 その他必要な事項

1 林業に従事する者の養成及び確保に関する事項

林業就業者及び林業後継者の育成のため、労働環境の整備改善に努めることとし、林業実践者との交流会や、林業技術や知識の取得向上を目的とした講習会の開催を推進するとともに、地域の実態に応じた林業への新規参入・起業など林業従事者の裾野の拡大、女性等の活躍・定着、

外国人材の適正な受入れ等に取り組むこととする。また、雇用安定化・長期化を図るため、社会保険等への加入促進等、労働条件の改善や安全管理体制の強化による労働安全性の確保についても指導を推進するものとする。

これらと合わせ、研修機関である秋田林業大学校を活用した、大仙市林業の未来を担う高い技術と知識を持った“若き林業後継者”の育成とキャリア形成支援を行う。

2 森林施業の合理化を図るために必要な機械の導入の促進に関する事項

生産コストの低減、林業生産性の向上、労働強度軽減等による林業経営の改善を図るため、高性能林業機械の導入を促進するものとする。

高性能林業機械の導入については、森林組合、林業事業者との連携を図りつつ、各種補助事業・融資制度の活用により促進するとともに、国、県が行うオペレーター養成の研修会についても参加の呼びかけを推進するものとする。

【高性能林業機械を主体とする林業機械の導入目標】

作業の種類		現状(参考)	将来
伐倒、集造材	緩斜地	伐倒 : チェンソー 集材 : トラクタ 造材 : チェンソー	伐倒 : ハーベスタ 集材 : フォワーダ 造材 : ハーベスタ
	傾斜地	伐倒 : チェンソー 集材 : 集材機 造材 : チェンソー	伐倒 : チェンソー 集材 : タワーヤーダ 造材 : プロセッサ
造林、保育等	地拵 下刈	地拵 : 人力、刈払機、 チェンソー、トラクタ 下刈 : 人力、刈払機	地拵 : 基本車両 +地拵え機械 下刈 : 基本車両+下刈機械

(注) 基本車両 : 傾斜地に対応した苗間走行が可能で各種の育林作業要作業機を装着できる車両をいう。

3 林産物の利用の促進のために必要な施設の整備に関する事項

木材流通については、素材の規格など流通関係者のニーズに応じていくとともに、加工コストの低減を図るため、出荷施設の整備や複数工場の連携等を推進し、木材の安定的な供給に努めるものとする。

木材の供給に当たっては、国有林・民有林を通じて川上から川下まで一体となり、関係者の一層の合意形成を進め、効率的な加工・供給体制の整備を推進することとする。

一方、木材の利用促進については、市としても、公共建築物や公共土木事業等における地域材の積極的利用を推進し、木材利用の普及拡大を図っていくこととする。

また、森林の有する多面的な機能を持続的に発揮させる森林経営に取り組み、生態系や土壌、水資源の保全などの基準を満たしている森林や事業者の管理・経営に対する森林認証の取得を推進し、秋田スギ等のブランド力向上を図り、業界と行政が一体となって県産材供給に向けた取り組みを進めることとする。

【林産物の生産（特用林産物）・流通・加工・販売施設の整備計画】

施設の種類	現状(参考)			計画			備考
	位置	規模	対図	位置	規模	対図	
製材工場 (m ³)	伊 岡	800	1				
	日ノ出町二	4,800	2				
	中田二	256	3				
	下八圭	1,000	4				
	西前村	600	5				
	上栄町	576	6				
	苧谷沢	16,562	7				
	岸 館	2,000	8				
	西ノ向	489	9				
	苧谷沢	2,630	10				
	揚 土	1,000	11				
	広 表	1,000	12				
	稲 沢	20,000	13				
中間土場 (ha)	稲 沢	5.6	14				
キノコ生産施設 (t)	蛭川南	12.2	15				
	中木内	14.0	16				
シイタケ生産施設 (kg)	土 川	19,000	17				
農産物展示 販売施設 (m ²)	刈和野	70	18				
林産物加工 販売施設 (kg)	大和野	50,000	19				
チップ工場 (m ³)	稲 沢	84,000	20				

4 その他必要な事項

森林の多面的機能の発揮に重要な役割を果たしている山村の振興の観点から、レクリエーションや環境教育等の場としての森林空間の総合的な利用の推進により、都市と山村の交流を促進します。また、自伐林家や地域住民、NPO等の多様な主体による森林資源の利活用等、森林の施業の合理化を進めることとする。

Ⅲ 森林の保護に関する事項

第1 鳥獣害の防止に関する事項

1 鳥獣害防止森林区域及び当該区域内における鳥獣害の防止の方法

(1) 区域の設定

特になし

(2) 鳥獣害の防止の方法

特になし

2 その他必要な事項

鳥獣害の防止の方法の実施状況を確認する方法については、必要に応じて植栽木の保護措置の実施箇所への調査・巡回、各種会議での情報交換、森林施業を行う林業事業者や森林所有者等からの情報収集に努めるものとする。

また、近年出没が多発しているクマ被害の防止を図るため、通学路や幹線道路、公共施設周辺森林の緩衝帯整備を行います。

第2 森林病虫害の駆除及び予防、火災の予防その他の森林の保護に関する事項

1 森林病虫害等の駆除及び予防の方法

森林病虫害の駆除及び防除については、適切な除間伐による被圧した衰弱木等の除去を行い、森林病虫害の予防や駆除に努めるものとする。

松くい虫による被害については、破碎・くん蒸などの駆除により被害の拡大防止を図り、特に重要な松林については、将来的に抵抗性を有するマツ等への転換も併せて行うものとする。

ナラ枯れについては、平成27年に確認されて以来、増加傾向にある。そのため、被害状況の監視や連絡体制の強化を進め、被害の拡大防止を図ることとする。

被害状況の監視等については、地方行政機関（国、県、周辺市町村）、森林組合、森林所有者等との連携により、被害状況の連絡体制づくりを推進することとする。

注）病虫害の蔓延のため、緊急に伐倒駆除する必要がある場合等については、ここに定める森林以外であっても、伐採の促進に関する指導等を行うことがある。

2 鳥獣害対策の方法（第1に掲げる事項を除く。）

野生鳥獣による森林被害対策については、野生鳥獣との共存に配慮した森林整備に努めることとし、特に重要な林分については、忌避剤等による防除を優先することとする。

なお、ニホンジカについては県内各地で目撃が報告されていることから、関係行政機関と情報共有化を図ることとする。

3 林野火災の予防の方法

山火事等の森林被害を未然に防止するため、地方行政機関（国、県、周辺市町村）との連携による山火事パトロールによる啓発活動を行うものとする。また、被害状況等の連絡体制づくりについても推進することとする。

4 森林病虫害の駆除等のための火入れを実施する場合の留意事項

火入れを実施する場合の留意事項については、森林法（昭和26年法律第249号）による許可制度の周知や関係機関との事前調整を行うよう指導を強化することとする。

火入れを実施する場合の目的については、病虫害駆除や造林のための地拵え、開墾準備、焼畑等に限り行えるものとし、不要な火入れは行わないよう指導するものとする。

火入れの方法については、防火帯を設けるなど防火体制を整備するとともに、風速、湿度等からみて延焼のおそれがない日を選び、できる限り小区画ごとに行うなど、周囲に延焼のおそれがない方法により実施するものとする。

5 その他必要な事項

(1) 病虫害の被害を予防するために防除活動等の対策を推進すべき林分

【病虫害の被害を予防するために防除活動等の対策を推進すべき林分】

区分	地域	森林の区域		備考
		林班	小 班	
守るべき マツ林	大曲	31	47,48	内小友
		42	519,20,22,27	花館
	中仙	11	67,69,72	長野
	協和	26	40-2	小種
		27	27,27-1	小種
		137	20,22,25,26	境
守るべき マツ林	仙北	1	2,3,4,4-1,5,37,39,41,42,43,44,47,48,49,50,52,53,54,55	
			払田、横堀小、高梨小、旧池田氏庭園(本家・分家)、古四王神社	
守るべき マツ林	太田 西地区		太田北小、四ツ橋地区、太田支所、太田中 太田南小、横沢公園	
	太田 東地区		太田東小、東部研修センター、東部墓地公園 白神神社、大台スキー場、ふれあいの森	
守るべき ナラ林	大曲	42	6,18,19,20,20-1,21,22,23,23-1,24,25,26,26-1,27,28,29,57	姫神公園
		43	9,10,11,12,13,14,15,17,24	
	神岡	10	1-23,1-24,1-25, 1-29,1-30, 1-36,1-37, 1-40,1-41, 1-49	神宮寺嶽
		13	6-3,6-2,9,9-1,9-2,9-3,9-4,9-5,9-6,9-7,9-8,10,10-1,11,12,13,14, 18-3,21,22,23,24,25,25-1,28,29,30,31,31-1,32,33,33-1,33-2,34, 34-1,35,35-1,36,37,37-1,37-2,38,38-1,41,42,42-1,44-1,44-2,47, 49-1,49-2,49-3,49-4,49-4,50,50-1,51,52,53,54,55,56,57,58,59,70, 70-1,70-2,70-3,70-17,70-18,71,71-1,72,1-73	羽黒山いこいの森
	西仙北	4	112,114,117,118,119,12,121,126	大佐沢公園
		5	56,65,69	
		6	31,32,41,43,44,45	
	南外	64	35,50,76,79,84	南外ふるさと森林公園
	協和		鬢垂れのシダレグリ	
	仙北		水尺神社(ミズナラ)、旧池田氏庭園(本家・分家)(クリ・コナラ)	

(2) その他

地方行政機関（国、県等）や森林組合、森林所有者等の巡視による森林の保護を推進する。

そのほかの地区においても、森林所有者による森林の保護のための巡視に努めるよう普及啓発活動を促進することとする。

IV 森林の保健機能の増進に関する事項

該当なし

V その他森林の整備に必要な事項

1 森林経営計画の作成に関する事項

(1) 森林経営計画の記載内容に関する事項

森林経営計画の作成に当たっては、特に次に掲げる事項について適切に計画するものとする。

- ① IIの第2の3の植栽によらなければ適確な更新が困難な森林における主伐後の植栽
- ② IIの第4の公益的機能別施業森林等の整備に関する事項
- ③ IIの第5の3の森林の経営の受委託等を実施する上で留意すべき事項
- ④ IIの第6の3の共同して森林施業を実施する上で留意すべき事項
- ⑤ IIIの森林の保護に関する事項

なお、経営管理実施権が設定された森林については、森林経営計画を樹立して適切な施業を確保することが望ましいことから、経営管理実施権配分計画が公告された後、林業経営者は当該森林について森林経営計画の作成に努めることとする。

(2) 森林法施行規則第33条第1号口の規定に基づく区域

該当なし。

2 生活環境の整備に関する事項

林業や木材産業への新規就労者の確保・定着を図るため、(公財)秋田県林業労働対策基金等の林業関係団体と連携し、UJIターン者をはじめ就業希望者を対象とした技能・技術の取得のための研修会等を実施するなど、新規就労の円滑化を図ることとする

3 森林整備を通じた地域振興に関する事項

森林整備を通じた地域振興については、地域材の利用拡大による地域振興に努めるため、地域材を利用した住宅づくりの推進や、間伐材の有効利用について、県と連携して助言・指導を行うものとする。

4 森林の総合利用の推進に関する事項

(1) 森林の総合利用の施設の整備計画

地域住民が森林に親しむ場であり、森林環境教育にも利用される森林の総合利用施設については、適切な維持管理に努めるものとし、地域の実情や地域住民の意向を踏まえた整備を行うものとする。

地区名	地域	将来整備計画等	対図番号
姫神公園	大曲	通常の維持管理等	1
余目公園	大曲	通常の維持管理等	2
黒森山森林公園	西仙北	通常の維持管理等	3
杉山田月山	西仙北	歩道整備、休憩施設整備	4
長野山ふれあいの森	中仙	通常の維持管理等	5
十六沢城址公園	中仙	通常の維持管理等	6
八乙女公園	中仙	通常の維持管理等	7
檜岡城址	南外	通常の維持管理等	8
南外ふるさと森林公園	南外	通常の維持管理等	9
太田交流の森	太田	歩道整備、休憩施設整備、キャンプ場整備等	10

5 住民参加による森林の整備に関する事項

(1) 地域住民参加による取組に関する事項

市内小・中学校をはじめとする青少年に対して、体験を通じて自然の大切さやふるさとへの愛着を育むため、森林組合、森林ボランティア団体等と連携を図り、森林教室や林業体験講座を定期的に行い、森づくりへの直接参加を呼びかけていくものとする。



(2) 上下流連携による取組に関する事項

該当なし。

(3) 法第10条の11に規定する施業実施協定の参加促進対策

森林組合や林業事業者と連携して施業実施協定の締結の呼びかけを行い、参加を促進するものとする。

(4) その他

該当なし。

6 その他必要な事項

(1) 秋田県ふるさとの森と川と海の保全及び創造に関する条例（水と緑の条例）に関する事項

森林の整備については、基本的に「水源涵養機能」「山地災害防止機能／土壌保全機能」「快適環境形成機能」「保健・文化機能」「木材生産等機能」の森林区分により、「Iの2 森林整備の基本方針」や「IIの第4 公益的機能別施業森林等の整備に関する事項」に基づき実施することとするが、特に条例の趣旨を反映すべき森林においては、森林の区分に関わらず、土壌条件や気象条件など地域の特性に応じて、次の事項に基づいた森林施業を実施する。

① 健全な生態系の回復・維持

- a スギ人工林においては、生育段階において自然に侵入する広葉樹について、スギの生育への影響を勘案しながら極力保残・育成する。
- b スギ人工林などの伐採跡地については、気象条件、土壌条件などを勘案しながら、混交林化や広葉樹林の造成を図る。
- c 特に標高の高い所など気象条件、土壌条件などが劣悪な箇所に植栽されたスギ人工林については、積極的に混交林等に誘導し、原則としてスギによる更新を行わない。

② 生物多様性の確保

- a 野生生物の移動通路として重要な尾根筋や、生物多様性に重要な沢筋などの森林においては、在来の広葉樹林や天然生林として保全する。
- b 広葉樹林への誘導に当たっては、尾根筋においては、天然更新の種子源となる樹種を保残するとともに、野生生物の餌となるブナ、ナラ類など実のなる樹種や、溪畔林においては、トチノキ、サワグルミ、カツラなど多様な樹種を確保する。
- c 森林の連続性を保ち、野生生物の生息地を確保するため、自然環境への負荷が大きい大面積皆伐を極力回避するよう努める。
- d 「IIの第2の1 人工造林に関する事項」「IIの第2の2 天然更新に関する事項」の指針に基づき、伐採後の適切な更新を図る。

③ 彩りの豊かなふれあいの森づくり

集落の近くや、住民の憩いの場所となっている里山については、景観やふれあいに配慮しながら多様な樹種で構成される混交林への誘導を図る。

(2) 水源森林地域の指定に関する事項

秋田県水源森林地域の保全に関する条例（平成26年条例第61号）に基づき、水源涵養機能維持増進森林としてゾーニングしている森林等を「水源森林地域」に指定していくものとする。

【水源森林地域における森林施業の方法】

伐採面積の縮小、伐採箇所の分散化に努めることとし、水質等の影響を最小限に抑えるため、時期や搬出方法に留意するとともに、作業路網への水切り、沈水池等を設置するなど、降雨等により河川に土砂が流出しないよう、きめ細かな配慮を行うこととする。



7 森林経営管理制度に基づく事業に関する事項

計画期間内における市町村森林経営管理事業計画別冊の森林経営管理権集積計画による。

別 表

No.1 大仙市(旧大曲市)

別表1 公益的機能別施業森林の区域

区分	森 林 の 区 域		合計面積 (ha)
	林班	小 班	
山地災害防止機能/土壌保全 機能維持増進森林	3	23, 24, 26, 26-1	231.00
	7	20, 20-1, 21	
	11	9~9-2, 11, 11-2, 18, 20, 27, 27-1, 27-3~27-6, 27-8, 27-9, 27-11	
	13	12	
	15	20, 20-4~20-14, 24-0, 24-1, 24-4~24-7	
	24	5, 5-1, 6, 6-1, 7~10-1, 11~15, 18, 20	
	25	16, 17, 18, 19	
	26	21, 21-2~21-9	
	27	30, 31	
	28	7, 8, 10, 65, 66, 67	
	29	10~10-3	
	37	1~10-1, 11~15-2, 16~18-1, 19~35-1, 42~49	
	38	20, 23~27	
	40	15, 30-1~5, 39, 39-1~3, 46, 46-1, 47~51, 65~67	
41	45-2~3, 109~111		
42	55, 55-3		
快適環境形成機能維持増進森林	16	30, 30-1	0.93
保健・文化機能維持増進森林	42	5-1, 6, 6-1, 7~12-1, 13~19, 22~25-1	104.31
	43	1~25-2, 26, 26-1, 27, 27-1~2, 28, 28-1, 29~30-2, 31~35-1, 36, 36-1 37~44-1, 45, 45-1~2	

No.2 大仙市(旧神岡町)

別表1 公益的機能別施業森林の区域

区分	森 林 の 区 域		合計面積 (ha)
	林班	小 班	
山地災害防止機能/土壌保全 機能維持増進森林	10	1-3~1-6, 1-26, 1-28~1-34, 1-42~1-45	31.08
	11	5-1, 5-3~5-17, 6~8, 8-1~8-3, 9, 9-1~9-5, 10~12, 12-1, 13~16, 16-1, 17~21, 22-5, 23-1, 24, 25, 25-2~25-4, 26, 26-1~26-5, 27, 27-2, 27-3, 28, 29, 29-1, 30, 30-1~30-5, 31, 32, 33-1, 33-4, 33-5, 33-7~33-9	
保健・文化機能維持増進森林	4	1-4~1-12, 2, 2-1, 2-2, 7	15.16

別表1 公益的機能別施業森林の区域

区分	森 林 の 区 域		合計面積(ha)
	林班	小 班	
水源涵養機能維持増進森林	18	6-1~2, 7, 8, 8-1~5, 9, 9-1~3, 10, 11, 11-1~6, 12~15-1, 16, 17, 17-1, 18 18-1~2, 19, 19-1~3, 20, 21, 21-1, 22, 22-1~2, 23, 23-2, 24~27	370.52
	22	59, 59-1, 60~62, 68, 68-1, 69~76	
	23	4~7-1, 8, 10, 13, 14, 14-1~2, 15, 15-1, 16~20, 21~23-1, 24, 25, 25-1~3 26, 26-1, 27, 27-1~2, 28, 29, 29-1~3, 30, 31, 31-1~2, 32, 32-1, 33 33-1~2, 34, 34-1~3, 35, 35-1	
		24	
	43	1~3-2, 4, 4-1, 10, 10-2, 10-5~7, 11, 11-1, 12	
	60	24-2~3, 24-5, 26, 26-1~2, 27, 28~30, 30-2~7, 31~33	
	62	1~3-2, 4, 4-1, 5, 5-1~3, 6, 6-1, 7~8, 9, 9-1~2, 10, 10-1, 11~15 17, 17-1~8, 18, 18-1, 19~21	
		1	
7	28, 29, 30, 30-1, 32		
10	4-4~7, 4-9~10		
11	1, 1-1, 1-3~1-7, 2~2-6, 4~4-5, 5, 5-1		
18	7, 8~8-5, 9~9-3, 11~11-6, 15, 15-1		
19	44, 44-1, 47, 48~48-8, 49, 49-1		
20	3~3-4, 4~4-3, 6, 7, 8, 9~9-2, 10, 11~11-3, 11-5		
23	29~29-3, 33~33-2, 34~34-3, 35		
30	3, 4~4-3, 8~8-2, 9~9-6, 19, 19-2, 19-3		
32	15, 15-1, 18-4, 18-5		
33	30, 30-1, 32, 33, 34, 34-1		
34	17, 18, 19, 20~20-4, 21, 21-1, 22~22-5, 23~23-8, 24~24-4		
35	1, 1-1, 2, 2-1, 3		
36	32, 32-1, 33, 33-1, 34		
40	73, 74, 76, 77, 78, 80-2, 86~86-4, 89, 89-1		
42	38, 38-2, 38-3, 40, 40-1, 53-1, 53-3, 55, 56, 57		
43	13~13-2, 14, 15, 15-1		
45	15, 15-1, 16~16-5		
46	5~7, 11~11-2, 13, 23, 23-1, 28-1~30, 32, 32-2, 33~33-2, 38~43, 49~49-2		
47	1~11-1		
50	28, 31, 33~33-2, 56, 56-2~56-7		
51	19, 39~41-1		
52	50~51-2		
53	18~24-0		

区分	森 林 の 区 域		合計面積 (ha)
	林班	小 班	
山地災害防止機能/土壌保全 機能維持増進森林	54	37～37-6	1,355.71 (同区分合計)
	56	21～22-4	
	57	18～21, 21-2～22	
	58	29～32-1	
	60	37～37-5, 39	
	61	12, 14, 20, 26, 29, 29-2, 29-3, 36, 38, 40, 45, 45-1, 57, 57-1, 58～59-1	
	62	17～17-2, 17-4～8	
	63	1, 1-1, 6～10	
	65	48～48-5	
	66	10～10-8	
	69	34～35, 37～37-2, 39～40, 53	
	70	13～14-1, 23, 23-1, 27, 31, 39, 39-2	
	71	2～2-2, 5～6-1, 10～11-1, 15～19	
	73	93～93-2, 149	
	75	7-1～10, 20, 23, 26-3	
	83	14, 14-1, 16	
	84	1, 3, 5, 5-1, 5-4, 8-2～13-1	
	88	1, 1-2～1-16, 6～6-4, 6-6～6-8, 16～17-1	
	89	12～12-3, 13, 13-1, 13-3～14-1, 24～25, 27, 27-1, 27-6～27-9 40～40-2, 42, 43, 46-1～50	
	90	6, 6-2, 7-1～3, 7-5～13, 9～11-1, 11-3～12-8	
	91	2～2-4, 4～4-5, 6～10, 12～13, 20～20-3 45, 69～73-4, 74～75-1, 76	
	92	4, 46-1, 46-2, 48～48-11, 50～50-4	
	94	39-1, 40, 50, 51, 53, 63～64-2, 80～80-10, 80-12, 81, 81-2～81-7 105～121, 123, 128-1, 129-1, 130-1, 131～144-1, 182, 184～187-2	
	95	1, 6, 11～13, 30	
	96	28～29, 70, 70-3, 70-4	
	97	61-1, 61-2, 61-4, 61-5, 68, 68-2, 71, 76～79	
	98	22～31, 41～41-3, 42-1～42-3, 43～43-7	
	99	21, 23, 24, 26, 33, 56～56-2	
	100	24～25-1, 102, 102-1, 124, 125-1, 126-1, 127-1, 127-2, 128-1 144, 144-1, 156, 159, 161, 161-1, 168～171-3, 172-1, 173, 179	
	101	112, 115, 116	
102	13, 14, 18-1, 29～30-2, 32, 32-1, 35, 37～47-1, 52～55-2		
104	44～46		
105	8～10, 11, 12		
106	1, 20		
107	7～7-5, 18～19, 22～31, 37～38-3		

区分	森 林 の 区 域		合計面積 (ha)
	林班	小 班	
山地災害防止機能/土壌保全 機能維持増進森林	109	16, 22, 24~30-60	1,355.71 (同区分合計)
	116	18-3, 18-5, 18-9, 19-3	
	117	17~18-3, 21~23, 23-2, 28~30-2, 30-4	
	119	2~2-8, 52~52-2	
	122	70~70-5, 72~75-3	
	124	134, 135~137-1	
	125	118~118-4, 120~121	
	126	99~102, 123~126	
	127	13~14-1, 30, 75, 75-1, 89~92-2, 104, 109~111-3, 131~131-5, 134~134-4 141, 141-1	
	128	33, 34, 38, 39, 39-1, 42	
	129	33, 33-1, 35, 38, 44, 44-1, 47, 48	
	130	32, 32-1, 33	
	131	79~79-2, 79-4, 84, 84-1	
	133	94~94-3, 96~101	
	137	106~106-2, 121-4, 121-5	
	138	41, 43~45, 164~166, 169~170	
	139	1~3, 20, 21~24	
141	168		
144	121, 122		
快適環境形成機能維持増進森林	16	4, 4-1	1.34
	17	133-2	
	126	158-1~2	
保健・文化機能維持増進森林	84	6~7-1	19.00

別表1 公益的機能別施業森林の区域

区分	森 林 の 区 域		合計面積(ha)
	林班	小 班	
水源涵養機能維持増進森林	11	66～72	192.82
	25	1～126	
	26	187, 188, 191～198, 201	
	30	1～198-1	
山地災害防止機能/土壌保全 機能維持増進森林	1	3, 3-1, 5～8-1	212.34
	2	1～1-12	
	3	1-1～3	
	7	28～30-1	
	9	171～207, 209～220, 270～299	
	10	55～59	
	11	1～5-1	
	13	4, 6, 7, 41, 73～100	
	15	108	
	17	1-1～1-3, 3, 5-1, 5-2, 24～28-1	
	18	54-1, 55～57, 58, 60-1, 63～64, 66～68, 70	
	24	63, 64, 66～71, 74～108, 113～116	
	26	179～202	
28	1～23, 30～48, 51～54		
保健・文化機能維持増進森林	10	52～54-2	1.80

別表1 公益的機能別施業森林の区域

区分	森 林 の 区 域		合計面積(ha)
	林班	小 班	
水源涵養機能維持増進森林	26	212, 214, 215	243.08
	82	29～31-1, 32～32-4	
	92	59～68	
	98	25, 25-1	
	99	1, 2, 7～18	
	118	2～16, 17～39	
	137	22～27	
山地災害防止機能/土壤保全 機能維持増進森林	1	66～71-1, 74～76, 80～81, 81-2～82	1,226.63 (同区分合計)
	2	24～24-4	
	3	56, 56-1	
	4	24～24-2	
	9	69～72, 72-2～79, 82, 83, 85, 86	
	10	1～12-8, 19, 19-1, 67, 68	
	11	1, 1-1, 23, 23-3, 27-1, 51, 51-2, 51-3, 65～68, 69～71	
	15	24, 24-2, 24-3, 24-5, 25-1～25-5, 25-7, 36, 36-1, 39～44-3, 44-5～45-3	
	19	5, 5-1, 8, 10, 13～13-4	
	29	23～27	
	30	1, 1-1, 2, 2-1	
	31	34	
	41	8-1～2	
	46	76-1	
	47	76～79, 85	
	48	19, 19-1, 23, 23-2～26-2, 30～30-3, 35	
	49	30～35-3, 35-5～35-7	
	50	33～34, 36～41, 67～67-3	
	51	30～34-10, 42～44, 104～104-5	
	53	46, 66～66-4, 74～75-1	
	56	18-1, 18-2, 25, 40	
	57	23-2	
	58	13-1～14-8, 16, 22～28	
	64	11～11-11, 11-13～11-20, 11-22～11-57	
	66	5～5-8, 15～16-4	
	67	83～84, 90, 91～97-2	
69	9, 9-1, 11		
74	5-1～11-1, 16～18-4		

区分	森 林 の 区 域		合計面積 (ha)
	林班	小 班	
山地災害防止機能/土壌保全 機能維持増進森林	77	18～19-4, 33-1～34-1, 38～40, 42, 43～48-1	1, 226. 63 (同区分合計)
	78	18-5	
	83	5～5-2, 50, 50-1, 50-3, 50-4, 52～52-2	
	84	3～4, 6～9, 9-2～10-1	
	86	21～29-2, 33～33-3, 35, 35-4	
	89	58～59-2	
	90	12～12-4	
	93	3～9, 10	
	94	63～64-6, 69～69-2	
	96	26-1～26-3, 31, 42, 60-1, 62～64-1, 66, 66-2～70, 71～73-1, 79, 79-2～79-6, 81, 81-2～82, 82-2～82-8, 88～88-3, 125～125-7, 127～127-2	
	97	2, 4～4-5	
	100	3-1～4, 4-2～6, 6-3	
	103	78-4～78-6, 84～86	
	104	49, 49-2, 49-3	
	105	38～45	
	106	13, 14, 62～62-3	
	107	25～26-2, 43～44	
	109	6-1, 18～21	
	110	31, 31-2, 31-3	
	111	5～6, 8～10-1, 13～19, 23, 23-1	
	114	45～46-2	
	115	6, 6-1	
	116	6～8, 10～10-3, 12, 25～27, 48, 48-1	
	117	29, 32～34-1, 36, 38, 39	
	123	60～62, 75	
	126	40～45	
	127	1～5, 27～30, 40～43, 46, 69, 72	
	128	10	
	131	1, 1-2～1-8, 23～25-1, 41～44	
	133	1～4-3, 5～5-2, 31-1	
134	1, 1-1, 1-3～1-7, 2～2-3, 18～18-2, 25, 25-1, 31, 31-1, 36～36-3, 36-5～36-7		
136	12, 12-2～13-3, 17～17-4, 57, 57-1		
142	37～42, 48～52, 75～80		
147	112, 113		
148	19～21, 154, 155		
150	29～35, 114～117-2		
154	78～92		

別表1 公益的機能別施業森林の区域

区分	森 林 の 区 域		合計面積(ha)
	林班	小 班	
水源涵養機能維持増進森林	3	73~77	194.07
	30	12, 13, 15~90	
	31	52, 67~71, 73, 74	
	44	61, 62	
	54	41~45-2, 49	
	55	40~42-3	
	88	22~25-2, 27~29-8, 29-10~18	
山地災害防止機能/土壤保全 機能維持増進森林	3	48-4	822.53 (同区分合計)
	4	64~70-1	
	5	41~45	
	7	9, 12~19, 23	
	9	9-1	
	12	53~53-3, 55~56-2, 69~71	
	13	13~13-7, 21~21-3	
	16	11~13	
	17	9, 9-1, 12, 13, 14	
	18	16~17-1, 18-1~18-5	
	19	1~1-3, 2	
	20	3, 5, 6, 7, 9~9-4, 11, 11-1, 20, 20-1	
	21	1~3, 8~13-6	
	22	7, 18~22-1, 25~26-1, 27, 28	
	25	19, 21~21-4, 62~62-2, 63, 65	
	27	9, 23~29	
	31	78, 78-1, 82~83, 90	
	32	28~30	
	35	7~7-4	
	36	1~2, 8~8-4, 15, 15-1, 18~18-5	
	37	5~5-7, 13~14-3	
	40	1-10, 6, 7, 27~29	
	41	5~12, 14, 14-1, 16~22-2, 24, 26, 28, 29	
	44	35, 35-2, 60~63-3	
	45	1-1~1-3, 3~3-4	
	47	6~12	
48	1~1-21		

区分	森 林 の 区 域		合計面積 (ha)
	林班	小 班	
山地災害防止機能/土壤保全 機能維持増進森林	50	33～36	822.53 (同区分合計)
	51	32-1～32-5, 32-7	
	52	29, 30	
	55	1, 2, 32～32-4, 33, 34	
	56	10, 11, 15～19, 22～28	
	58	34～35-3, 73, 75～76-4	
	59	8, 8-1, 10, 10-1	
	60	16～18, 20, 20-1, 27～35	
	64	92～93	
	65	18～20-2, 21-1	
	69	92	
	70	43, 43-1, 52～53-1, 59～59-2	
	71	125～125-7	
	75	26～26-3, 28～29	
	77	45, 45-15～45-18	
	79	34～50	
	80	1～4-1, 5～8-1, 11-1	
	81	10-1, 16	
	87	41～41-3	
	88	22～25-2, 27～29-8, 29-10～29-18, 36～37-4	
	91	11, 12, 37～44, 44-2～57	
92	5, 8, 22～29-4, 30-1～32, 35, 35-1, 40～41		
93	131		
94	7, 10, 13, 14, 35, 43, 46, 53, 58, 62, 76, 89		
95	1～2		
快適環境形成機能維持増進森林	64	1-1	1.07
	80	60	
	82	42, 43	
保健・文化機能維持増進森林	30	4～11, 12-1～2, 14, 91～109	10.68

No.7 大仙市(旧仙北町)

別表1 公益的機能別施業森林の区域

区分	森 林 の 区 域		合計面積(ha)
	林班	小 班	
水源涵養機能維持増進森林	1	1～4, 5～8	5.54
保健・文化機能維持増進森林	1	4-1, 9～56	11.88

No.8 大仙市(旧太田町)

別表1 公益的機能別施業森林の区域

区分	森 林 の 区 域		合計面積(ha)
	林班	小 班	
水源涵養機能維持増進森林	3	1～33	145.98
	10	1～143	
	11	1～4-12	
山地災害防止機能/土壌保全 機能維持増進森林	3	27～27-4	71.22
	4	1～15	
	10	7～32, 85～99	
保健・文化機能維持増進森林	10	115～115-4, 116, 119, 120, 121-4, 124, 125, 126-1, 127-1, 128-1, 129-1 130-1, 131-1, 132-1	30.48
	11	4～4-12	

No.1 大仙市(旧大曲市)

別表2 公益的機能別施業森林の区域のうち、施業の方法を特定すべき森林等の区域

区分	森 林 の 区 域	
	林班	小 班
山地災害防止機能/土壌保全 機能維持増進森林 (長伐期施業)	3	23, 24, 26, 26-1
	7	20, 20-1, 21
	11	9~9-2, 11, 11-2, 18, 20, 27, 27-1, 27-3~27-6, 27-8, 27-9, 27-11
	13	12
	15	20, 20-4~20-14, 24-0, 24-1, 24-4~24-7
	24	5, 5-1, 6, 6-1, 7~10-1, 11~15, 18, 20
	25	16, 17, 18, 19
	26	21, 21-2~21-9
	27	30, 31
	28	7, 8, 10, 65, 66, 67
	29	10~10-3
	37	1~10-1, 11~15-2, 16~18-1, 19~35-1, 42~49
	38	20, 23~27
	40	15, 30-1~5, 39, 39-1~3, 46, 46-1, 47~51, 65~67
	41	45-2~3, 109~111
42	55, 55-3	
合計面積(ha)		231.0
快適環境形成機能維持増進森林 (長伐期施業)	16	30, 30-1
合計面積(ha)		0.93
保健・文化機能維持増進森林 (長伐期施業)	42	5-1, 6, 6-1, 7~12-1, 13~19, 22~25-1
	43	1~9, 11~25-2, 26, 26-1, 27, 27-1~2, 28, 28-1, 29~30-2, 31~34, 36, 36-1, 37~44-1, 45, 45-1, -2
合計面積(ha)		101.53
保健・文化機能維持増進森林 (複層林施業)	43	10, 35, 35-1
合計面積(ha)		2.78

No.2 大仙市(旧神岡町)

別表2 公益的機能別施業森林の区域のうち、施業の方法を特定すべき森林等の区域

区分	森 林 の 区 域	
	林班	小 班
山地災害防止機能/土壌保全 機能維持増進森林 (長伐期施業)	10	1-3~1-6, 1-26, 1-28~1-34, 1-42~1-45
	11	5-1, 5-3~5-17, 6~8, 8-1~8-3, 9, 9-1~9-5, 10~12, 12-1, 13~16, 16-1, 17~21, 22-5, 23-1, 24, 25, 25-2~25-4, 26, 26-1~26-5, 27, 27-2, 27-3, 28, 29, 29-1, 30, 30-1~30-5, 31, 32, 33-1, 33-4, 33-5, 33-7~33-9
合計面積(ha)		31.08
保健・文化機能維持増進森林 (長伐期施業)	4	1-4~1-12, 2, 2-1, 2-2, 7
合計面積(ha)		15.16

別表2 公益的機能別施業森林の区域のうち、施業の方法を特定すべき森林等の区域

区分	森 林 の 区 域	
	林班	小 班
水源涵養機能維持増進森林 (標伐+10)	18	6-1~2, 7, 8, 8-1~5, 9, 9-1~3, 10, 11, 11-1~6, 12~15-1, 16, 17, 17-1, 18 18-1~2, 19, 19-1~3, 20, 21, 21-1, 22, 22-1~2, 23, 23-2, 24~27
	22	59, 59-1, 60~62, 68, 68-1, 69~76
	23	4~7-1, 8, 10, 13, 14, 14-1~2, 15, 15-1, 16~20, 21~23-1, 24, 25, 25-1~3 26, 26-1, 27, 27-1~2, 28, 29, 29-1~3, 30, 31, 31-1~2, 32, 32-1, 33 33-1~2, 34, 34-1~3, 35, 35-1
		24
	43	1~3-2, 4, 4-1, 10, 10-2, 10-5~7, 12
	60	24-2~3, 24-5, 26, 26-1~2, 27, 28~30, 30-2~7, 31~32
	62	1~3-2, 4, 4-1, 5, 5-1~3, 6, 6-1, 7~8, 9, 9-1~2, 10, 10-1, 11~15 17, 17-1~8, 18, 18-1, 19~21
		合計面積(ha)
水源涵養機能維持増進森林 (複層林施業)	43	11, 11-1
	60	33
合計面積(ha)		2.57
山地災害防止機能/土壌保全 機能維持増進森林 (長伐期施業)	1	1, 2, 3, 4, 4-1, 5, 5-1, 5-2, 6, 6-1, 7~7-2, 8, 8-1, 9, 9-1 10, 10-1, 11, 11-1, 12, 13
	7	28, 29, 30, 30-1, 32
	10	4-4~7, 4-9~10
	11	1, 1-1, 1-3~1-7, 2~2-6, 4~4-5, 5, 5-1
	18	7, 8~8-5, 9~9-3, 11~11-6, 15, 15-1
	19	44, 44-1, 47, 48~48-8, 49, 49-1
	20	3~3-4, 4~4-3, 6, 7, 8, 9~9-2, 10, 11~11-3, 11-5
	23	29~29-3, 33~33-2, 34~34-3, 35
	30	3, 4~4-3, 8~8-2, 9~9-6, 19, 19-2, 19-3
	32	15, 15-1, 18-4, 18-5
	33	30, 30-1, 32, 33, 34, 34-1
	34	17, 18, 19, 20~20-4, 21, 21-1, 22~22-5, 23~23-8, 24~24-4
	35	1, 1-1, 2, 2-1, 3
	36	32, 32-1, 33, 33-1, 34
	40	73, 74, 76, 77, 78, 80-2, 86~86-4, 89, 89-1
	42	38, 38-2, 38-3, 40, 40-1, 53-1, 53-3, 55, 56, 57
	43	13~13-2, 14, 15, 15-1
	45	15, 15-1, 16~16-5
	46	5~7, 11~11-2, 13, 23, 23-1, 28-1~30, 32, 32-2, 33~33-2, 38~43, 49~49-2
	47	1~11-1
	50	28, 31, 33~33-2, 56, 56-2~56-7
	51	19, 39~41-1
	52	50~51-2
	53	18~24-0
	54	37~37-6
	56	21~22-4
	57	18~21, 21-2~22
	58	29~32-1
	60	37~37-5, 39
	61	12, 14, 20, 26, 29, 29-2, 29-3, 36, 38, 40, 45, 45-1, 57, 57-1, 58~59-1
	62	17~17-2, 17-4~8
	63	1, 1-1, 6~10
	65	48~48-5
	66	10~10-8
	69	34~35, 37~37-2, 39~40, 53
	70	13~14-1, 23, 23-1, 27, 31, 39, 39-2
	71	2~2-2, 5~6-1, 10~11-1, 15~19
	73	93~93-2, 149
	75	7-1~10, 20, 23, 26-3
	83	14, 14-1, 16
84	1, 3, 5, 5-1, 5-4, 8-2~13-1	
88	1, 1-2~1-16, 6~6-4, 6-6~6-8, 16~17-1	
89	12~12-3, 13, 13-1, 13-3~14-1, 24~25, 27, 27-1, 27-6~27-9 40~40-2, 42, 43, 46-1~50	

区分	森 林 の 区 域	
	林班	小 班
山地災害防止機能/土壤保全 機能維持増進森林 (長伐期施業)	90	6, 6-2, 7-1~3, 7-5~13, 9~11-1, 11-3~12-8
	91	2~2-4, 4~4-5, 6~10, 12~13, 20~20-3
		45, 69~73-4, 74~75-1, 76
	92	4, 46-1, 46-2, 48~48-11, 50~50-4
	94	39-1, 40, 50, 51, 53, 63~64-2, 80~80-10, 80-12, 81, 81-2~81-7
		105~121, 123128-1, 129-1, 130-1, 131~144-1, 182, 184~187-2
	95	1, 6, 11~13, 30
	96	28~29, 70, 70-3, 70-4
	97	61-1, 61-2, 61-4, 61-5, 68, 68-2, 71, 76~79
	98	22~31, 41~41-3, 42-1~42-3, 43~43-7
	99	21, 23, 24, 26, 33, 56~56-2
	100	24~25-1, 102, 102-1, 124, 125-1, 126-1, 127-1, 127-2, 128-1
		144, 144-1, 156, 159, 161, 161-1, 168~171-3, 172-1, 173, 179
	101	112, 115, 116
	102	13, 14, 18-1, 29~30-2, 32, 32-1, 35, 37~47-1, 52~55-2
	104	44~46
	105	8~10, 11, 12
	106	1, 20
	107	7~7-5, 18~19, 22~31, 37~38-3
	109	16, 22, 24~30-60
	116	18-3, 18-5, 18-9, 19-3
	117	17~18-3, 21~23, 23-2, 28~30-2, 30-4
	119	2~2-8, 52~52-2
	122	70~70-5, 72~75-3
	124	134, 135~137-1
	125	118~118-4, 120~121
	126	99~102, 123~126
	127	13~14-1, 30, 75, 75-1, 89~92-2, 104, 109~111-3, 131~131-5, 134~134-4
		141, 141-1
	128	33, 34, 38, 39, 39-1, 42
	129	33, 33-1, 35, 38, 44, 44-1, 47, 48
	130	32, 32-1, 33
	131	79~79-2, 79-4, 84, 84-1
	133	94~94-3, 96~101
137	106~106-2, 121-4, 121-5	
138	41, 43~45, 164~166, 169~170	
139	1~3, 20, 21~24	
141	168	
144	121, 122	
合計面積(ha)		1355.71
快適環境形成機能維持増進森林 (長伐期施業)	16	4, 4-1
	17	133-2
	126	158-1~2
合計面積(ha)		1.34
保健・文化機能維持増進森林 (長伐期施業)	84	6~7-1
合計面積(ha)		19.00

別表2 公益的機能別施業森林の区域のうち、施業の方法を特定すべき森林等の区域

区分	森 林 の 区 域	
	林班	小 班
水源涵養機能維持増進森林 (標伐+10)	11	66～72
	25	1～126
	26	187, 188, 191～198, 201
	30	1～198-1
合計面積(ha)		192.82
山地災害防止機能/土壌保全 機能維持増進森林 (長伐期施業)	1	3, 3-1, 5～8-1
	2	1～1-12
	3	1-1～3
	7	28～30-1
	9	171～207, 209～220, 270～299
	10	55～59
	11	1～5-1
	13	4, 6, 7, 41, 73～100
	15	108
	17	1-1～1-3, 3, 5-1, 5-2, 24～28-1
	18	54-1, 55～57, 58, 60-1, 63～64, 66～68, 70
	24	63, 64, 66～71, 74～108, 113～116
	26	179～202
	28	1～23, 30～48, 51～54
合計面積(ha)		212.34
保健・文化機能維持増進森林 (長伐期施業)	10	52～54-2
合計面積(ha)		1.80

別表2 公益的機能別施業森林の区域のうち、施業の方法を特定すべき森林等の区域

区分	森 林 の 区 域	
	林班	小 班
水源涵養機能維持増進森林 (標伐+10)	26	212, 214, 215
	82	29~31-1, 32~32-4
	92	59~68
	98	25, 25-1
	99	1, 2, 7~18
	118	2~16, 17~39
	137	22~27
合計面積(ha)		243.08
山地災害防止機能/土壌保全 機能維持増進森林 (長伐期施業)	1	66~71-1, 74~76, 80~81, 81-2~82
	2	24~24-4
	3	56, 56-1
	4	24~24-2
	9	69~72, 72-2~79, 82, 83, 85, 86
	10	1~12-8, 19, 19-1, 67, 68
	11	1, 1-1, 23, 23-3, 27-1, 51, 51-2, 51-3, 65~68, 69~71
	15	24, 24-2, 24-3, 24-5, 25-1~25-5, 25-7, 36, 36-1, 39~44-3, 44-5~45-3
	19	5, 5-1, 8, 10, 13~13-4
	29	23~27
	30	1, 1-1, 2, 2-1
	31	34
	41	8-1~2
	46	76-1
	47	76~79, 85
	48	19, 19-1, 23, 23-2~26-2, 30~30-3, 35
	49	30~35-3, 35-5~35-7
	50	33~34, 36~41, 67~67-3
	51	30~34-10, 42~44, 104~104-5
	53	46, 66~66-4, 74~75-1
	56	18-1, 18-2, 25, 40
	57	23-2
	58	13-1~14-8, 16, 22~28
	64	11~11-11, 11-13~11-20, 11-22~11-57
	66	5~5-8, 15~16-4
	67	83~84, 90, 91~97-2
	69	9, 9-1, 11
	74	5-1~11-1, 16~18-4
	77	18~19-4, 33-1~34-1, 38~40, 42, 43~48-1
	78	18-5
	83	5~5-2, 50, 50-1, 50-3, 50-4, 52~52-2
	84	3~4, 6~9, 9-2~10-1
	86	21~29-2, 33~33-3, 35, 35-4
	89	58~59-2
90	12~12-4	
93	3~9, 10	
94	63~64-6, 69~69-2	
96	26-1~26-3, 31, 42, 60-1, 62~64-1, 66, 66-2~70, 71~73-1, 79, 79-2~79-6, 81, 81-2~82, 82-2~82-8, 88~88-3, 125~125-7, 127~127-2	
97	2, 4~4-5	
100	3-1~4, 4-2~6, 6-3	
103	78-4~78-6, 84~86	
104	49, 49-2, 49-3	
105	38~45	
106	13, 14, 62~62-3	
107	25~26-2, 43~44	
109	6-1, 18~21	
110	31, 31-2, 31-3	
111	5~6, 8~10-1, 13~19, 23, 23-1	
114	45~46-2	
115	6, 6-1	
116	6~8, 10~10-3, 12, 25~27, 48, 48-1	
117	29, 32~34-1, 36, 38, 39	

区分	森林の区域	
	林班	小班
山地災害防止機能/土壤保全 機能維持増進森林 (長伐期施業)	123	60～62, 75
	126	40～45
	127	1～5, 27～30, 40～43, 46, 69, 72
	128	10
	131	1, 1-2～1-8, 23～25-1, 41～44
	133	1～4-3, 5～5-2, 31-1
	134	1, 1-1, 1-3～1-7, 2～2-3, 18～18-2, 25, 25-1, 31, 31-1, 36～36-3, 36-5～36-7
	136	12, 12-2～13-3, 17～17-4, 57, 57-1
	142	37～42, 48～52, 75～80
	147	112, 113
	148	19～21, 154, 155
	150	29～35, 114～117-2
	154	78～92
	合計面積 (ha)	
山地災害防止機能/土壤保全 機能維持増進森林 (複層林施業)	77	18～19, 39～40
合計面積 (ha)		24.43

別表2 公益的機能別施業森林の区域のうち、施業の方法を特定すべき森林等の区域

区分	森 林 の 区 域	
	林班	小 班
水源涵養機能維持増進森林 (標伐+10)	3	73~77
	30	12, 13, 15~90
	31	52, 67~71, 73, 74
	44	61, 62
	54	41~45-2, 49
	55	40~42-3
	88	22~25-2, 27~29-8, 29-10~18
合計面積(ha)		194.07
山地災害防止機能/土壤保全 機能維持増進森林 (長伐期施業)	3	48-4
	4	64~70-1
	5	41~45
	7	9, 12~19, 23
	9	9-1
	12	53~53-3, 55~56-2, 69~71
	13	13~13-7, 21~21-3
	16	11~13
	17	9, 9-1, 12, 13, 14
	18	16~17-1, 18-1~18-5
	19	1~1-3, 2
	20	3, 5, 6, 7, 9~9-4, 11, 11-1, 20, 20-1
	21	1~3, 8~13-6
	22	7, 18~22-1, 25~26-1, 27, 28
	25	19, 21~21-4, 62~62-2, 63, 65
	27	9, 23~29
	31	78, 78-1, 82~83, 90
	32	28~30
	35	7~7-4
	36	1~2, 8~8-4, 15, 15-1, 18~18-5
	37	5~5-7, 13~14-3
	40	1-10, 6, 7, 27~29
	41	5~12, 14, 14-1, 16~22-2, 24, 26, 28, 29
	44	35, 35-2, 60~63-3
	45	1-1~1-3, 3~3-4
	47	6~12
	48	1~1-21
	50	33~36
	51	32-1~32-5, 32-7
	52	29, 30
	55	1, 2, 32~32-4, 33, 34
	56	10, 11, 15~19, 22~28
	58	34~35-3, 73, 75~76-4
	59	8, 8-1, 10, 10-1
	60	16~18, 20, 20-1, 27~35
64	92~93	
65	18~20-2, 21-1	
69	92	
70	43, 43-1, 52~53-1, 59~59-2	
71	125~125-7	
75	26~26-3, 28~29	
77	45, 45-15~45-18	
79	34~50	
80	1~4-1, 5~8-1, 11-1	
81	10-1, 16	
87	41~41-3	
88	22~25-2, 27~29-8, 29-10~29-18, 36~37-4	
91	11, 12, 37~44, 44-2~57	
92	5, 8, 22~29-4, 30-1~32, 35, 35-1, 40~41	
93	131	
94	7, 10, 13, 14, 35, 43, 46, 53, 58, 62, 76, 89	
95	1~2	
合計面積(ha)		822.53

区分	森 林 の 区 域	
	林班	小 班
快適環境形成機能維持増進森林 (長伐期施業)	64	1-1
	80	60
	82	42, 43
合計面積(ha)		1.07
保健・文化機能維持増進森林 (長伐期施業)	30	4~11, 12-1, 12-2, 14, 91~109
合計面積(ha)		10.68

No.7 大仙市(旧仙北町)

別表2 公益的機能別施業森林の区域のうち、施業の方法を特定すべき森林等の区域

区分	森 林 の 区 域	
	林班	小 班
水源涵養機能維持増進森林 (標伐+10)	1	1~4, 5~8
合計面積(ha)		5.54
保健・文化機能維持増進森林 合計面積(ha)	1	4-1, 9~56
		11.88

No.8 大仙市(旧太田町)

別表2 公益的機能別施業森林の区域のうち、施業の方法を特定すべき森林等の区域

区分	森 林 の 区 域	
	林班	小 班
水源涵養機能維持増進森林 (標伐+10)	3	1~33
	10	1~143
	11	1~4-12
合計面積(ha)		145.98
山地災害防止機能/土壌保全 機能維持増進森林 (長伐期施業)	3	27~27-4
	4	1~15
	10	7~32, 85~99
合計面積(ha)		71.22
保健・文化機能維持増進森林 (長伐期施業)	10	115~115-4, 116, 119, 120, 121-4, 124, 125, 126-1, 127-1 128-1, 129-1, 130-1, 131-1, 132-1
	11	4~4-12
合計面積(ha)		30.48

大仙市別表 1 の総括

(Ⅱの第4の1の(1)のア)

(Ⅱの第4の1の(2)のア)

公益的機能別施業森林の区域

水源涵養機能維持増進森林 1,152.01 ha

山地災害防止機能/土壌保全機能維持増進森林 3,950.51 ha

快適環境形成機能維持増進森林 3.34 ha

保健・文化機能維持増進森林 193.31 ha

(ha)

番号	旧市町村名	水源涵養機能 維持増進森林	山地災害防止機能/土壌保 全機能維持増進森林	快適環境形成機能 維持増進森林	保健・文化機能 維持増進森林
1	大曲市		231.00	0.93	104.31
2	神岡町		31.08		15.16
3	西仙北町	370.52	1355.71	1.34	19.00
4	中仙町	192.82	212.34		1.80
5	協和町	243.08	1226.63		
6	南外村	194.07	822.53	1.07	10.68
7	仙北町	5.54			11.88
8	太田町	145.98	71.22		30.48
	計	1152.01	3950.51	3.34	193.31

※木材等生産機能維持増進森林は国有林以外の管内森林の全域を定めるが、このうち、特に効率的な施業が可能な森林については定めないものとする

大仙市別表 2 の総括

(Ⅱの第4の1の(1)のイ)

(Ⅱの第4の1の(2)のイ)

公益的機能別施業森林の区域のうち、施業の方法を特定すべき森林等の区域

標伐+10 1,149.44 ha

長伐期施業 4,119.95 ha

複層林施業 29.78 ha

番号	旧市町村名	標伐+10	長伐期施業	複層林施業
1	大曲市		333.46	2.78
2	神岡町		46.24	
3	西仙北町	367.95	1376.05	2.57
4	中仙町	192.82	214.14	
5	協和町	243.08	1202.20	24.43
6	南外村	194.07	834.28	
7	仙北町	5.54	11.88	
8	太田町	145.98	101.70	
	計	1149.44	4119.95	29.78

別表3 公益的機能別施業森林の施業の方法等について

施業の区分	施業方法
<p>標伐+10 長伐期施業</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 主伐の時期は、標準伐期齢（適正伐期齢が定められている森林にあつては適正伐期齢）の概ね2倍の林齢以上とする。 2) 主伐は、別紙資料に示す育成単層林施業に係る標準的な方法に準じて実施するものとする。 3) 間伐は、一定の蓄積を維持しつつ下層植生の維持に必要な照度が確保されるように行うものとし、間伐率は20%以内とする。 4) 造林及び保育は、別添資料に示す単層林施業に係る標準的な方法に準じて実施するものとする。
<p>複層林施業</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 林齢が概ね40年に達した段階で、伐採率30%程度の主伐を実施して下層木を植栽することとする。 2) 植栽樹種は、スギとし主伐後2年以内に、当計画において定めた人工造林の植栽本数を基準として、主伐材積の比率に応じた本数を植栽することとする。 3) 間伐は、下層木の的確な生育を確保するため、必要に応じて行い、一定の蓄積が常に維持される間伐率とするものとする。 4) 保育については、当計画に示す育成複層林施業に係る標準的な方法に準じ、下層木の育成状況等に応じて実施するものとする。

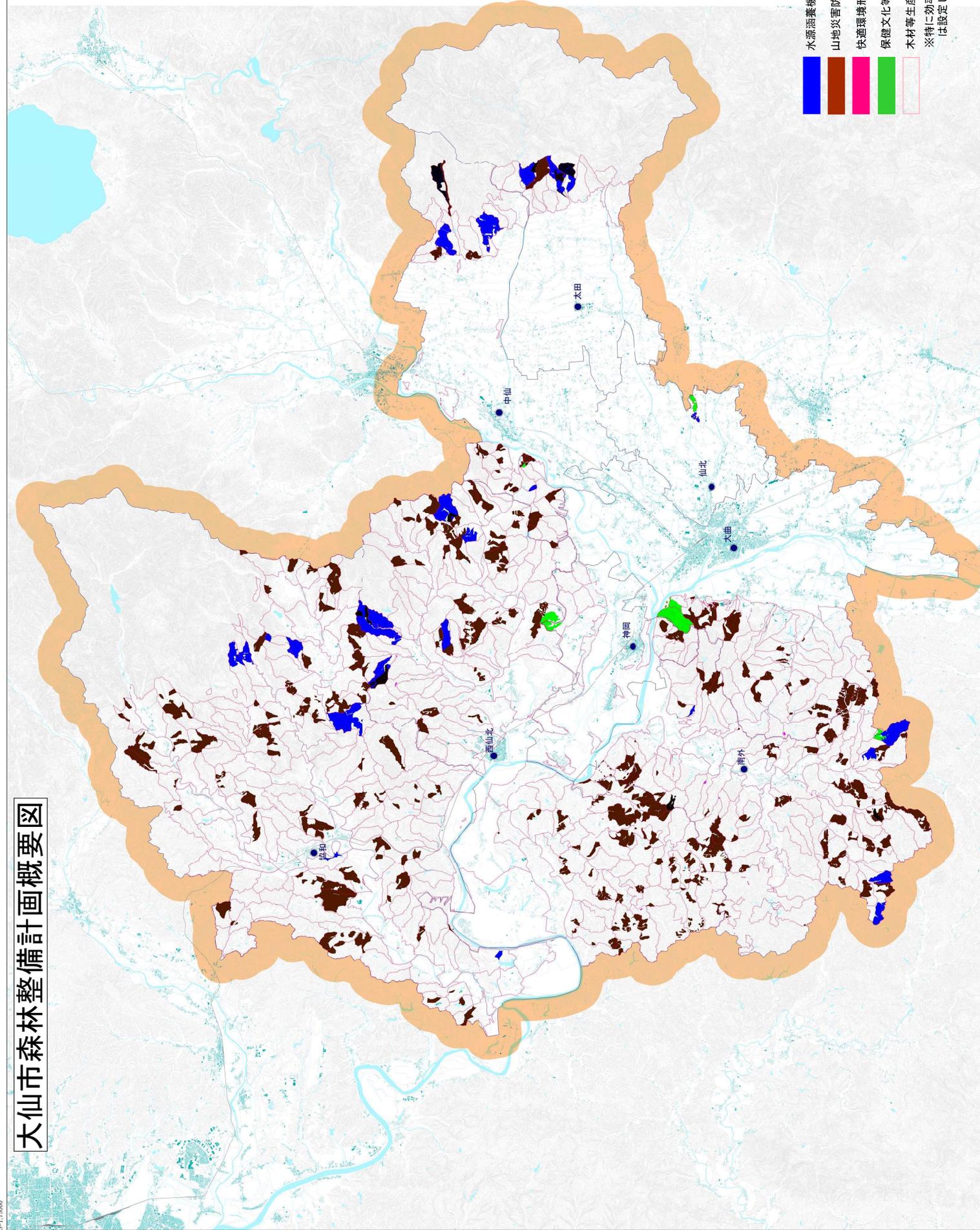
別表4 細部路網の整備計画

路線名	位置	延長 (km)	利用施設		他の路線との関連		備考
			種類	数量(ha)	名称	種類	
堂ノ沢	17-40～ 17-36	0.3	造林	4.2	中山線	市道	大曲
鴨ヶ沢	7-39～ 17-42-2	0.4	除間伐	12.7	鴨ヶ沢線	農道	大曲
小出沢	16-13-4～ 16-3	0.4	〃	8.5	松ノ木沢線	市道	大曲
小出沢	13-40-5～ 13-40-5	0.3	〃	5.6	熊ノ沢線	市道	大曲
阿弥陀沢	3/10～44-1	0.6	間伐	12.6	青平線	町道	西仙北
鬼頭沢	30/69～83	1.0	〃	15.8	鬼頭線	町道	西仙北
家ノ上	113/17～46	0.6	〃	24.1	北野目 戸川1号線	町道	西仙北
外小戸川	89/35～55	0.8	〃	28.7	下戸川 小戸川線	町道	西仙北
伝上坊	43/31～47	4.0	〃	64.8	南外19号	市道	南外
滝ノ沢	32/3～54	3.8	〃	88.9	滝ノ沢1号	市道	南外
大台川口	12/23-1～ 14/4-2	3.0	〃	217.93	惣行家 東1号線	町道	太田
金井伝沢 武士平	6/2～5/4	1.5	〃	70.2	真木線	町道	太田
計		16.7		554.03			

大仙市森林整備計画概要図



大仙市森林整備計画概要図



- 水源涵養機能維持増進森林
 - 山地災害防止等機能維持増進森林
 - 快適環境形成維持増進森林
 - 保種文化等機能維持増進森林
 - 木材等生産機能維持増進森林
- ※特に効率的な施業が可能な森林は設定しない